

傳習館

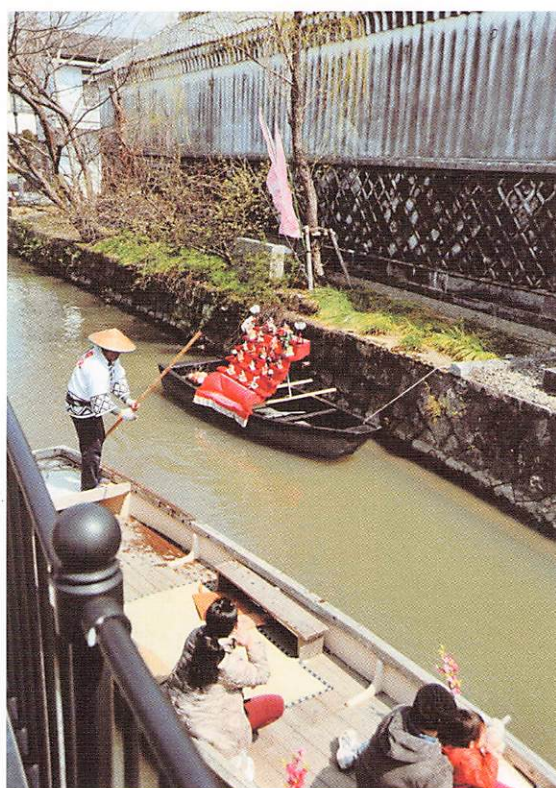


東京同窓会会報

第13号 2013.1.1



平成 24 年度 東京同窓会総会を振り返って
修学旅行生との交流会
チタンの話
大江の幸若舞と江戸人の貢献
6年ぶり甲子園出場
ふるさと瓦版



表紙写真「大江の幸若舞」

提供 高14 松尾正幸氏

ウラ表紙「蜘蛛手棚」

撮影 高8学年幹事 樋口誠佑氏

蜘蛛手棚 柳川市橋本町

四つ手網とも呼ばれ、小魚を取る漁法。

昭和30年代には市内の川堀でよく見受けられたが、今では殆ど見られなくなり、市南部有明海干拓堤防沿いに名残りを留めている。

表紙ウラ「川下り」

撮影 高8学年幹事 樋口誠佑氏

今では柳川観光の代名詞、6社100名の船頭が居て、こたつ船も登場し年間を通して、川下りが出来るようになりました。

雛祭りの季節にはコースの途中で、岸辺に飾られたお雛様を見掛けます。

第13号 2013.1.1

東京同窓会本部より

平成 25 年 年頭の挨拶	会長 江崎 正直	2
平成 24 年度修学旅行生との交流会	高 18 福山 博彰	3
東京同窓会の歩み	副会長 松永 肅	5
賛助金ご協力状況報告		8
賛助金通信欄コメント		9
東京同窓会決算収支報告		10
平成 24 年度同窓会総会を振り返って	高 23 高田 健二	11
平成 24 年度同窓会総会会計報告		12
学年幹事会報告	高 21 白谷 政則	13

母校だより

平成 24 年度進路状況		12
--------------	--	----

先輩・後輩より

最後の同期会	中 56 成清 良孝	14
草野球と甲子園	高 3 高椋 重夫	15
わが伝習館のスポーツの黄金時代	高 5 阿津坂林太郎	15
私は、こうして地域活動を始めた	高 5 下河 秀行	18
北京・西安旅行記	高 7 大藪 成人	19
夏の夜の夢—蟬の脱皮、続バレーボール部余談	高 11 龍 勝	21
チタンの話	高 12 野上 一治	22
大江の幸若舞と江戸人の貢献	高 14 松尾 正幸	24
青春のパイプライン (映画篇①前篇)	高 18 福山 博彰	25
6年ぶり甲子園出場	高 21 白谷 政則	27

学年幹事より

高 8 回 (昭和 32 年) 卒同級会開催	高 8 樋口 誠佑	28
高 10 「伝十会」	高 10 内山 秀生	29
高 12 回生同期会「くっぞこ会第 28 回」開催	高 12 小野アケミ	30
高 18 回同期会開催	高 18 福山 博彰	30

ふるさと瓦版

広報やながわより—柳川の国宝		31
市報おおかわより—市長のひとりごと		32
市報おおかわより—内村航平選手と大川の関係は～お父さんは柳川高校出身		33
広報やながわより—豊臣秀吉ゆかりの茶壺		33

新刊紹介など

『近世大名立花家』、『柳川市史資料編 V 近世文書』、『柳川の民俗概観 II』		34
江崎正直著『教育は人づくり』		34
編集後記		35

伝習館



東京同窓会 会報

東京同窓会本部より

平成 25 年年頭の挨拶

活性化されてきた同窓会

伝習館東京同窓会 会長 江崎正直

会員の皆さん！新年明けましておめでとうございます。お元気で新年を迎えられたことと拝察いたします。

2年に1回の総会が昨年7月8日にホテル・グランドパレスで、300名近い多数の会員にご出席いただき盛大に開催されました。総会に先立ち立花寛茂同窓会長のご講演がありました。前半では、戦前に撮影された立花家及び柳川の興味深い写真をご披露され、繁栄した柳川の街を拝見して感慨深いものがありました。後半では、お話上手な寛茂会長の面白いお話に、出席の皆さん方が笑いこけながら聞きほれました。懇親会では老若男女が一堂に会し、賑やかな雰囲気を作り出しました。アトラクションもあり、故郷柳川の美味しいもの売店は早々に売り切れ、例年に比べて景品も多く、3時間にわたって楽しみました。若い世代の出席者も多く、皆さん方のご協力と関係者のご努力が実って、大盛会裏に総会は終了しました。

9月19日には修学旅行生との交流会が、早稲田のリーガロイヤル・ホテルで開催されました。今回は、前以て伝習館の方から質問項目が出されていたお蔭で、先輩方も生徒に対して答え易く、充実した交流会となりました。冒頭に私は「人生は努力」という短い挨拶をしました。その間、全員制服を着た男女の生徒たちが、凛々しく起立したままで話を聞いている姿を見て、彼らが次代を背負ってくれるなという期待感が湧いてきました。その後6つのクラスに分かれて先輩との交流会に入り、90分があっという間に過ぎました。特に今年は、現役大学生の出席者が多かったお蔭で、生徒との距離が縮まり、会が盛り上がりました。

今回の東京研修訪問先は、都庁・気象庁・日銀本店・NHKなど19か所に及び、最後はディズニーランドで締めくくり、好評だったようです。筑後地区の高校では「明善校に次いで伝習館が2番目の位置を守っている」とのお話を館長先生からお聞きし、先輩として頼もしく思いました。

会の運営には諸費用が必要となりますので、今年も賛助金に対する会員皆さん方のご協力を、切にお願い致します。

『平成24年度 修学旅行生と卒業生との交流について』

本年も、恒例の高校2年生の修学旅行生と卒業生(OB・OG)との交流会が、今年で第9回を迎え開催されました。

日時…9月19日(水) 19時～21時

場所…リーガロイヤルホテル東京(宿泊先)

出席者…高校生約240名、先生方、並びに卒業生40名

(内、大学生14名)

今年は6組の各クラスをOB・OG6～7名が担当し(大学生、若手・中堅社会人、シニア、ベテラン)、今後の進路、高校時代の勉強・経験、大学・仕事等について高校生と懇談、盛り上がりを見せました。

ここに高校生の感想等と併せて、今回は若手社会人OBの感想等をご紹介します。(一部抜粋・要約)

《高校生の印象に残ったOBの言葉・話》

▽努力に勝るものはない。

▽仲間を大切にす。

▽夢を見つけるためには「行動する」ことが大切、挑戦する必要がある。夢がないと言う前に、探す努力をするべき。

▽高校では「基礎」、大学では「応用」、社会では「実践」。

▽高校時代もっと勉強しておけば良かった。今勉強していくと、後で楽になる。

▽5分前行動や挨拶の大切さ。声は大きくないと誰も聞いてくれない。

▽最低でも5回「Why」を繰り返せ。

▽自分の知っている世界は、振り返ってみると小さいことが分かる。

▽受験のために携帯電話を解約。

《高校生の感想》

▽東京への進学は余り考えていなかったが、この交流を通して東京への進学にも興味が湧いた。／東京の大学に行

きたい私にとって、とても貴重な話が聞けた。

▽進路決定の時期や受験のことなど、気になっていたことを沢山聞くことが出来て良かった。／進路決定のためモチベーションを上げるために、行きたい大学の資料を取り寄せようと思った。

▽何を勉強するにしても、とにかく英語が大切であることを学んだ。

▽様々な世代の先輩方の話を聞くことができ興味深かった。甘える心を捨てて、危機感を持って挑戦しようと思った。

▽自分が何をしたいか、見直すことができた。／自分が将来やりたいことをするには、もっと色んな人に出会って、色んな経験をすることが大切だと思った。

▽高校生の時にやっておくべきことや、社会人として気を付けることを教えてもらった。／「ほうれんそう」(報告・連絡・相談をこれからの生活に活かして行こう)と思った。

▽「視野は後からついてくる」「追いかけることを諦めない」高校生の時期に具体的な目標を持つことが大切だと知った。

▽携帯電話を解約してまで勉強した経験を聞いて反省した。

▽将来は自分も先輩のようになりたいと思った。普段は分からない、伝習館のつながりを感じた。

《OBの感想》

▽生徒はみんな素直で熱心で、そういった誠実な姿勢に自分も学ばせてもらった。

▽社会人として、時間を守ったり身なりを整えたりするなど、先生から日々厳しく言われていることが卒業後役に立つ、と指摘すると、生徒がみんな「シーン」となり自己反省モードになっていたのが興味深かった。先生から普段

言われることを先輩から言われると説得力があるようなので、交流会は教育効果も高いだろう。

▽学生の輪の中に入ると何となく彼らの人間関係や普段の教室での様子がわかる。「あ、この人、こんな風に考えてたんだ」と、生徒同士が新たな一面を発見し、柳川に帰ってからもクラス全体の雰囲気がよくなったり、団結が強くなったりするようなきっかけになればと(こっさり)思っている。

▽担任の先生が興味深く聞いていらっしゃり、時には学生が受けた同窓生からの回答を熱心にメモにとられるなどしていた。同窓生としても嬉しい気持ちになった。

【進行役としての振り返り】

①少人数であればあるほど話し易いと思いい、全体で自己紹介を行った後に、13、4人の3グループに分かれて交流した。

②これまでと比べても、高校生が打ち解けるまでの時間が短く、またOBも学生の名前をすぐ覚えられるなど両者の距離が縮まった上で話げできたように思う。

③各グループに2人ずつOBが入った。経験者の先輩がいたのでうまく進んだが、グループ後の進め方を進行役から提案しておけば、よりスムーズだっただろう。

④2人一組のOBが3つのグループを回ったが、他のクラスからも若い世代のOBが担当クラスに回ってくるので、2種類のローテーションが、時間の関係でうまくいかないこともあった。1クラスを更にグループに分ける際のデメリットと言える。ただ、このデメリットは時間の余裕があればそれほど大きな問題にはならないだろう。(当日は交流時間が想定より短くなった)

【51回生 大曲由起子】

【同窓会での情報シェアについて】

Facebook等を使用して管理者をたてたグループを作成し、メンバーに通知するのはいかがでしょうか？

口コミでの通知も1つの手段として良いとは思いますが、より効率的に多くの関係者に正しい情報をシェアできる方法とし検討いただけると嬉しいです。Facebook内でも伝習館の和がより広がり、より多くの若手同窓生が参加してくれる可能性も広がります。

【プログラムについて】

時間割もシェアいただけると助かります。

18..45 集合 19..00 OBに要領説明

19..15 交流会開始 21..00 終了

21..15 懇親会@〇千円 23..15 解散

といった簡単な時間割でも分かると、より参加しやすくなり、懇親会からだけでも参加できるメンバーもいると思うので、検討いただけると幸いです。

【51回生 本村泰輝】

【事前説明について】

初参加の社会人は要領を得ないと思いますので、大学生同様、当日の説明会の対象として加えて頂けると安心だと思います。

【クラスの進行役について】

過去に参加実績のある人、なるべく高校生に近い年齢の人、若手社会人が適していると思います。大学生と若手社会人を比較すると、会社などでミーティングの進行を経験しある程度慣れている人が多いためです。ベテランの先輩方だと高校生が身構えてあまり質問が出なくなる可能性もあると感じました。

【高校生からの質問内容について】

担当クラスの理系四組では、受験を目前に控えているためか、勉強方法を教えて下さい、苦手を克服する方法は？ 高校生活でやり残したことは？ 高校生活と大学生活での違いは？ など、現在のことに関する質問が多く聞かれました。

▽大学生は高校を卒業したばかりで回答しやすいと思います

ますが、折角社会人の先輩も集まっているので、就職や仕事に関するディスカッションもしてみたいです。

▽事前に目を通していただけた想定質問よりも内容が幼稚と感じる質問が中にはありましたが、年々インフォーマルな度合を高めていると伺いましたので、場の雰囲気や和らげるために堅苦しくない質問も必要なんだろうと理解しています。

▽現役高校生とディスカッションできる貴重な機会を頂戴し、有意義な時間を過ごすことができました。若輩者の立場から色々申し上げてしまい恐縮でございます。伝習館東京同窓会は素晴らしい会だと思います。ありがとうございました。

【51回生 永田朝子】

▽会自体が、大変よくオーガナイズされており、心地よい時間でした。私のクラスでは、進行役である境先輩が上手く運んでくれて、大変助かりました。

ただ、大勢の中では表に出て意見を言うという生徒はやはり少なかったので、より小さなグループでの交流も考えていいのではないかと思います。まずは大きなクラス単位での意見交流、その後により小さな単位で、という感じ

【53回生 古賀智法】

【良かった点】
クラスごとに幅広い年齢層のOBとの交流ができたこと。生徒からの質疑応答により進化したこと。

【改善すべき点】

▽一つの質問に対し、全てのOBが回答して時間がかかった。↓クラス内を一人のOBに対し何人かの生徒というグループにすることで効率的になると思います。

▽時間のくぎりがかかず、大学生が次のグループに移動する際に時間がかかってしまった。↓最初に時間を何分で区切るかを全体で決め、その後タイムキーパーを各班で一

人決めるとよいのでは。

▽隣のクラスとの間隔が狭すぎたため、雑音があった。↓もっと間隔をとったほうがよいのではないのでしょうか。

【高校生の反応について】

真剣にOBの話の聞いていた様子でした。しかし、質問を求めると、恥ずかしいのかなかなか質問をする生徒がいなかった。

【OBとして思ったこと】

私の年から修学旅行が東京になり、生徒として交流会に参加したのを覚えています。今回初めてOBとして参加させていただき、生徒さんのまじめな態度に非常に驚き、同時に改めて伝習館生で良かったなど実感いたしました。今後このような機会がずっと続き、卒業後も縦と横のつながりが広くなればいいなと思いました。改めて、参加させていただきありがとうございます。また機会があれば、ぜひ参加したいと思っておりますので今度ともよろしくお願いたします。

【56回生 木村陽佳】

▽短い時間ではありませんでしたが、諸先輩方とお話することができ、楽しかったです。

▽交流会は、私があったクラスは昨年よりも元気がない気がしました。女子の多い文系クラスだったからかもしれせん。2年1組は、男子10人ほどでした。

▽東京の大学に行きたいという生徒も少なかった感じがしました。景気や社会動向が左右すると思いますが、少し残念でした。ですので、限られた時間の中で親元を離れて、東京の大学に行くことのメリットを伝えました。生徒と直接話ができ、とても楽しかったです。

【59回生 古賀康之】

(まとめ・高18回 福山博彰)

〔交流会出席協力者〕（敬称略）

55	中学	江崎 和夫	大学4年副島万莉
2	高校	江崎 正直	4 廣松浩司
3		酒井 清行	4 平川 潤
5		松永 肅	4 深町日出海
12		小野アケミ	3 荒巻麻衣
12		野上一治	3 小柳真咲
13		原田万紗子	2 亀崎元貴
14		石橋俊一	2 杉なつみ
14		高木節子	2 中村知永
18		十時理展	1 岡村真弘
18		福山博彰	1 津村 舞
21		白谷政則	1 中山皓人
28		吉開孝人	1 松岡五十鈴
32		境 和晃	1 山本麻衣
51		太田絵美	現役大学生 14名
51		大曲由起子	
51		酒見洋佑	
51		塩塚厚則	
51		永田朝子	
51		本村泰樹	
53		古賀智法	
55		武下優子	
55		龍 幸宏	
56		本村陽佳	
59		古賀康之	
59		武松翔平	
	OB	26名	

合計40名

東京に輝ける三稜の星たち
——東京同窓会の歩み——その12

副会長 松永 肅

東京同窓会は、この100周年記念行事の成功と共に存在感が見直されてきた感はありましたが、私には一抹の不安がよぎっておりまして。

実は、私ごとながら、あと2年で定年を迎えますので、その後の東京同窓会の運用についてであります。定年後は当然ホテルの事務所は閉鎖し、移転しなければなりません。取り急ぎ事務所の移転先を決める必要があります。他校の同窓会事務所を調べますと当時は殆んどが法律事務所や会計事務所の中に設けられておりました。これに倣い、会員の中に適人者を探しましたところ、毎回、東京同窓会に出席いただいている板橋区在住の弁護士で、豊島法律事務所所長の、高校11回卒の故白谷大吉氏を候補に、また、東京同窓会は勿論のこと、旧柳河出身の有志で組織された「みろく会」などで、大変ご協力頂いている立花家の次女で高校13回卒の原田万紗子氏が嫁れている九州でも銘菓で有名な老舗「千鳥屋」をJR山の手線駒込駅前の立派なビルに「千鳥屋」東京本店を構えておられるのに気づきました。私は直感的に事務所は、ここにお願ひする他にないと決め、記憶は定かではなく、平成6年の秋頃と思いが原田万紗子氏を駒込の会社におたずねし、同窓会の現状などを細部にわたり説

明しました結果、ご本人は了解されましたが、引き受けるには勿論ご主人、即ち、原田良昭社長のご承認が必要との事でありました。原田社長は直方市ご出身・九州の大学を卒業され、仕事も公私に亘り多忙を極めておられるなか、何とか面談の時間を割いていただき、お願いしましたところ、伝習館が、立花家の藩校であったことに興味を示され、快くご承諾いただきました。また、原田万紗子氏は当時、千鳥屋の常務取締役として経営の一端を担われておられたにも係らず、同窓会の事務も併せてお引き受け頂き安堵いたしました。但し、原田万紗子氏に、「東京同窓会」の業務をすべて引き継ぎいただくには、ご本人も原田社長と同じく公私に亘り多忙を極めておられますので、土台無理があるので、私が取敢えずお手伝いさせていただきますに致しました。

私も同窓会の事務の引き継ぎの準備に取り掛かり始めたころ、江口会長の推挙で、高校2回卒で当時関東天然ガス取締役社長の江崎正直氏が「みろく会」にご出席されるようになりました。

江崎氏の略歴をご紹介しますと、昭和26年に伝習館高校を卒業され、昭和55年に九州大学工学部応用科学部を卒業、同年東洋高圧工業（現三井化学）に入社され、彦島鉱業所を皮切りに、昭和48年

まで自社製品のプラントの販売や技術指導をはじめベルギー・オランダ・オーストラリアでの技術の研修・技術営業販売など多岐に亘り海外で指導と研修を重ねてこられました。同年に三井東圧化学（三井化学）本社に復帰され、環境事業部営業部長昭和57年三井東圧化学取締役彦島工業所長・昭和62年同社大牟田工業所長、平成5年関東天然ガス専務取締役茂原鉱業所長、平成7年同社代表取締役社長として活躍しておられました。

この頃、江崎氏は先に発行された「東京同窓会会報第6号」の中で詳細に説明いたして居ります中学55回卒・高校3回卒で組織された「五期会」の設立にご尽力され、幹部的な役割を果たしておられました。江崎氏は「みろく会」にご執心され、毎回の如くこの例会にご出席されているうちに「みろく会」と「東京同窓会」との係わりをご理解いただいたようであります。

平成8年の秋頃と思いますが、「みろく会」の例会が終了した後に江口三千雄会長から江崎氏と私が呼ばれて、江口会長から、江崎氏に「君に東京同窓会の副会長を委嘱したい」との要請がありました。江崎氏もこれを了承されました。江口会長も先に大病を患らわれ、体調も優れずご高齢でもあり、会長の補佐役には最適任者をお選びいただいたと、私も賛同いたしました。

これで東京同窓会の執行部は、会長は江口三千雄・副会長は古賀弘子・同江崎正直・更には事務局に原田万紗子の各氏と強固な体制が整うことになりました。

数日後、江崎氏から、私に相談があり、「副会長を引き受けたからには、東京同窓会を今まで以上に活性化したいので協力してほしい。」との要請でありました。

これについては初めから協力を惜しまないつもりでおりましたので、私が東京同窓会に携わったときからの経過について出来るだけ詳細にご説明いたしました。

内容につきましては紙面の関係上（先の東京同窓会会報第2号、3号に掲載をご参照）省略させていただきますが、私の経過の説明には良くご理解いただいたと思いました。その上で江崎氏は、今後の東京同窓会のあり方について、「同窓会の活性化を語るには同窓生の全員が参加して、老若男女が楽しく語り合える集まりにしたい」との理想を掲げられておられました。この目的を果たすには先ず多額の資金が必要であるとの意向であり、その集めた資金の運用の方法をどうするか、また、現在の同窓生の人数が2,000名強であり、潜在的には約3,000名強の会員が存在していると思われるので、この掘り起し方法についてまで考えておられました。

江崎氏は、東京同窓会の副会長として、真剣に取り組まれようとしているお気持ちに私は強く感じられました。

私も最初に東京同窓会の仕事に携わったのは、言い訳じみておりますが、若干36歳（約40年前）のことであり当時は会社の業務と東京同窓会の仕事、それに「みろく会」の手伝いが重なり、業務を最優先するのは当然であり、東京同窓会の仕事はどうしても簡潔な方法を取らざるを得ず、この間東京同窓会の運用はすべて当日の会費の範囲内で運用させていただけでした。この方法は当時の同窓会を維持して行くには適切であったと自負しておりましたが、「東京同窓会の活性化を語る」には問題があると思われるので、過去の東京同窓会が約30年間に亘り継続できたのは私一人の力で決して出来たことではなく、何時も同窓の先輩・同期・後輩の皆さんが率先してご協力頂いたから成し得たことであります。これら会食費は勿論のこと交通費など全て自己負担でご協力いただきました。

このような皆様の温かいご熱意があったからこそ継続できたものと確信し、心から感謝いたして居ります。

ここで、江崎氏がこの東京同窓会副会長を受託されてから、引き続き会長に就任されるまでの経緯を皆様にご説明しないと、現在の「東京同窓会の現況」がご理解出来ないかと判断致しましたので、若干前記と重複しますが多少の紙面を割いてご説明させていただきます。

江口同窓会長にはご了解いただいておりました私の定年に伴いホテルの事務所を駒込の「千鳥屋」に移転することを、詳細に江崎副会長にご説明し了解していただきました。

江崎副会長のご意向として、事務局を引き受けていただいた原田万紗子氏と江崎副会長会それに私の3名で取り急ぎ「東京同窓会の運用」の方法につき検討し考え方を統一しておく必要があるのでは、会合を開きたいとの事でありました。

この時点で「千鳥屋」に事務所を移しておりましたが、「千鳥屋」の原田社長にはご挨拶をしておりませんでしたので、東京同窓会として正式にご挨拶させていただきます。千鳥屋で第1回目の会合を開かせていただきました。その後数回会合を開き、同窓会の活性化を語るためには、まず資金を集めること、同窓会の運用に関して検討する代表を卒業年度ごとに出すことなど、出来るだけ急ぐことで同意しました。

実は私ごとで恐縮ですが、私は現在喜寿を迎え過去の記憶が曖昧になってきておりますので、多少の記憶違いがあるとは思いますが、出来るだけ手持ちの資料を紐解いて筆耕いたしておりますので大きな間違いは無いと確信いたしておりますのでその点ご了承いただきたく存じます。

これも、平成9年の秋頃の「みろく会」終了のあと江口会長と面談され、江崎副会長は、江口会長にご自分が副会長を引き受けたからには、「東京同窓会の活性化」が必要であることを熱心に説明され、江口会長も同意され、当座の資金として30万円を拠出されることをお約束されました。これで東京同窓会の執行部の中で少額ではありますが、資金が確保できましたので、次は各卒業年度毎の検討委員の選出を急ぐこととなりました。然し、急ぎ各卒業年度ごとの代表を選出するには時間が必要であり、初めに少人数の検討委員を選任し活性化のたたき台を起草し、これを卒業年度の代表（後の学年幹事）が検討する仕組みを作り上げる

ことにしました。検討委員の選出は以前から東京同窓会の総会をお手伝いいただいた皆さんを基準に選ばせていただき、第1回の会合を江崎副会長のご意向で、日本橋「上野精養軒」で開催致しました。その会合に出席いただいた「発起人」といべき方々は、中学51回卒松田 含・

中学54回卒浅山親司・中学55回卒江崎和夫・中学56回卒鬼丸敏男・高校1回卒永江政勝・増尾義勝・高校2回卒石崎知見・高校4回卒白谷正敏・丸勢正夫・高校5回卒岸榮洋・高校6回卒萩島直記・高校7回卒田中敬之助・高校10回卒内山秀生・高校12回卒北村健一・高校13回卒石橋正道・田中利通・高校18回卒中島英治・松藤由郎・高校19回卒芹川季代子・高校20回卒高須和登・東 寛治・高校21回卒白谷政則・高校24回卒酒見和平・笹子幸子・高校52回卒吉開孝人の各氏25名に加えて執行部の高校2回卒江崎正直（副会長）・高校13回卒原田万紗子（事務局）それに高校5回卒の私を合わせて総勢28名の出席がありました。これ程多くの方々が出席されたことは、それだけ「同窓会の活性化」に期待されておられた証であることに、執行部として責任の重大さを実感し、緊張感を覚えました。この会合でも、当日の会食費・交通費などすべて個人負担でご参加され、真剣に討議していただきました。

江崎副会長から、ご自身が副会長に選ばれ就任するに当たり東京同窓会を更に活性化するために、新しい組織に改善したい旨、詳細に説明され、執行部の原案を基に討議され、真剣に審議された案を

集約して、実行に移すことになりました。

成案された内容は、東京同窓会の活性化を踏むには、組織的な運営と、財政的な裏付が必要である。組織的な運営については運営の基となる東京同窓会会則を制定し、次に「学年幹事会」を発足させる。加えて同窓生名簿を把握する。財政的な裏付として会員から賛助金（年会費）を徴収する。加えて会員相互の情報（伝習館東京同窓会会報）を密にする会報（伝習館東京同窓会会報）を発行する。以上の通り原案がまると、以後、東京同窓会は日本橋「上野精養軒」で数回に亘り「学年幹事会」を開きこの原案を全て実行に移してまいりました。

平成12年の春と記憶しておりますが、江口会長から「みろく会」終了の後江崎副会長と私が呼ばれ、江口会長から「自分は同窓会長の職を辞したい。ついては副会長である江崎君に会長職を譲りたい」との事でありました。江崎会長もこれを了承されました。引續き、江口会長から「これからの「東京同窓会の運営のため150万円寄贈するから有効に使ってほしい」との事でありました。江崎副会長も大変有難く拝受されました。また中学51回卒の松田 含氏からも50万円のご寄附を頂きました。これにより先に江口会長から30万円を加え280万円の基金ができました。この基金を有効に活用して、江崎会長は、初めに学年幹事会の承認を得て、財政的な裏付となる「東京同窓会会報」の発行に踏み切られました。会報の発行で、会員相互の情報を密にしなが、同窓会の運用を図るた

め、賛助金の拠出をお願いすることになりました。「伝習館東京同窓会会報」の創刊号は平成14年元旦に発行され松の内会員の皆さんに届けられました。同窓会の運用に必要なものは財政的な裏付（運用資金）です。江崎会長は創刊号の中に「賛助金協賛のお願い」のチラシを挿入しておられます。

この賛助金協賛のお願い書は江崎会長が、今後の「東京同窓会会員皆さんのご理解を得られるか否か」の浮沈に係る事柄と、賭しておられますので茲に敢えて全文をご紹介します。

賛助金協賛のお願い

さる7月21日に開催された21世紀最初の総会で、同窓会会則がきまり、新しい時代へ向けて踏み出すことになりました。この機会に執行部は、新たな取り組みで同窓会の活性化をはかり、皆さん方のご要望にこたえたく決意をかためております。

同じ学び舎に学んだご縁を大切に、老いも若きもお互いに助け合うのが同窓会でありたい。

同窓会の活性化をはかるには、組織的な運営と、財政的な裏付が必要です。

組織的な運営については学年幹事会を4年前に発足させ、軌道に乗って参りました。

財政的な裏付をするには、会費徴収が最も近道かと考えられますが、他校の実情をつぶさに調査してみますと、いずれも

納入率が低く、費用効果の点で問題があるやに聞いています。私どもとしましては、会費制採用には慎重にならざるを得ません。

一昨年来、江口会長および松田 含 会員から多額のご寄付を頂戴いたしました。

これを東京同窓会の活性化のための運営資金として有効活用する方法を、学年幹事会で検討しました。その結果、このご芳志を意義あらしむべく、全員の皆様方の自発的賛助に期待してはということになりました。会員の皆様に、賛助金をお願いするものであります。

一口二千元とし、何口でも結構です。同封の振込用紙にご記入の上、ご協力をお願い致します。寄付金並びに協賛金を有効に活用して、東京同窓会の活性化を図ってまいります。会報発行に踏み切り、会員相互の情報を密にして、一体化を推進し協賛者の顕彰を行いたいと考えております。賛助金振込用紙は毎年元旦にお届けする会報に同封させていただきます。ここに予定している会報は、在京会員の情報は、申すまでもなく、母校伝習館の近況に加えて、柳川を中心とする市町村の情報も掲載することにしていただきますので、ミニ情報紙としてもお楽しみいただけると思います。

趣旨ご賛同の上、ご協賛下さいますようお願い致します。

平成14年12月 伝習館東京同窓会

会長 江崎 正直

会員各位

このような目的で創刊された同窓会会報は好評を得て目標の協賛金が集まりました。

これを機に創刊して12年間で13号まで発行するまでに至っており、内容も、回を増すごとに充実してきております。これも偏に会員各位のご理解とご協力の賜ものと深く感謝致しております。

会報の発刊にあたり、編集委員を選任し作業に当たりました。特に、江崎会長が同期でもある小野善睦氏を編集委員長に推挙され、小野氏を中心に創刊号が発行されました。

小野編集長につきましては紙面の都合で次回に詳述させていただきますが、会報の通信コメント欄に、皆様から次のような「感想文」を頂戴しております。

「いつもお世話様です。会報、有難うございました。よくできていますね。小野編集長の力量、抜群です。」

「編集委員のみなさま、いつも素晴らしい会報の編集、発行お世話様です。毎号心待ちしながら、懐かしく楽しく拝読しているところですが、特に今号（11号）は内容が充実しており、編集長のお言葉のとおり小生は永久保存に致します。」

以下 次号へ

【賛助金ご協力状況報告】

(平成24年1月1日～平成24年12月31日)

卒回	氏名
高8	村岡ハルノ
高10	石橋邦博
高11	龍正勝
高12	横山正和
高12	尾田常昭
高12	広永加代子
高12	峯本昭子
高15	一木克子
高16	荒巻明美
高17	山本祥子
高18	高比良明子
高20	東寛治
高23	樋口貴美子
高24	石川八重子
高24	山田直美
高32	柿野勇人
協賛1口	
中49	松尾淳
中50	田辺一彦
中50	廣松親弘
中54	吉弘尚正
中55	木下宗治
中55	馬場淳三郎
中56	井関義久
中56	高田信義
中56	松本一郎
女33	木下千遠
女40	山田チテ
女41	五十嵐八千代
女42	富重信子
女42	山口トヨ
女42	遠藤美代子
女45	板井敏子
女46	佐伯淑子
女47	中島尚子
女47	松永征矢子
高1	高石満之
高2	池田國彦
高2	田中豊子
高2	古賀苦住
高2	諸藤繁樹
高2	増田則久
高2	徳安朔子
高2	徳安原董
高3	北井大工
高3	田井順次
高3	村井夕子
高4	山本瞳
高4	石橋安男
高4	高須信治
高5	高橋絹子
高5	武田八重子
高5	原夕子
高5	宮川政寛
高5	野口幹彦
高5	岸洋子
高5	酒井弘子
高5	阿津坂林太郎
高5	松永悦子
高6	石橋修

卒回	氏名
高14	石橋俊一
高14	高木節子
高15	乗富眞則
高16	荒巻明美
高17	森永正隆
高17	森永正隆
高17	福山雅文
高18	木下栄一郎
高18	十時理展
高18	満生英二
高18	秦正子
高18	松藤由朗
高18	川口秀喜
高22	竜美代子
高27	友清寛
高27	高橋圭介
高27	藤木雄二
高31	高木亮治
高31	平田洋
協賛2口	
中55	武藤徳一
高2	鬼丸敦美
高6	井手眞
高7	松永泰輔
高7	梅崎肇
高8	豊島黎子
高8	石貴夕子
高8	本木寅三郎
高8	一色康子
高8	樋口綾子
高10	東辰子
高10	永倉素子
高10	大村平人
高11	古賀敏之
高11	樋口守
高11	石橋秀男
高13	進藤達実
高14	甲斐昌彦
高15	小河良充
高20	岡賢二
高24	大曲雄二
高27	松藤峯成
高34	真鍋和裕
協賛1.5口	
女47	板橋久子
高1	熊本巨
高3	西山彰
高3	木村澄子
高3	宮崎八代子
高3	酒井清行
高3	高木邦介
高4	藤丸稔子
高5	鈴木妙子
高5	松尾久子
高6	中尾久代
高7	大藪成人
高8	池田孝人
高8	海部章
高8	甲斐田義春
高8	大村泰生

卒回	氏名
高21	白谷政則
高22	松岡正治
高22	北原富美男
高23	樋口貴美子
高27	乗富祐治
高31	石橋義浩
高32	濱武久司
協賛3口	
中56	鬼丸敏男
高7	田中敬之助
高7	龍弘道
高8	永倉正彦
高8	與田武久
高10	古賀明美
高11	近藤素子
高18	井手頼子
協賛2.5口	
中55	江崎和夫
中56	松本学
女41	森脇ツル子
高1	近藤紀
高2	廣松敏克
高2	石崎知見
高2	河野健一郎
高2	大沢律子
高3	新谷弘之
高3	柳沢一彦
高3	高椋重夫
高4	高石敏男
高4	荒井健之輔
高5	江口政司
高5	古賀弘
高5	中村義行
高5	家入智恵子
高6	佐藤晴美
高6	添島幸雄
高7	田中健次
高7	野林修
高8	樋口誠佑
高8	川口融
高8	遠藤武雄
高8	濱野禮子
高8	森健
高9	石瀬籌子
高9	木原茂樹
高10	板橋加代子
高10	下川清子
高10	石橋博史
高10	古賀敏昭
高10	川口圭之
高11	鶴清三
高11	相浦美香
高11	木下淑子
高11	伊東勝久
高11	江口克子
高11	岡辰彦
高11	田島龍子
高12	白尾邦久
高13	尾田義昭
高14	濱尾淑江

卒回	氏名
協賛50口	
高2	江崎正直
協賛25口	
高16	藤吉憲生
協賛10口	
中54	武藤吉郎
高2	江頭孝夫
高4	倉本博子
高18	石川滋
高19	野口昇
高21	甲木清
協賛7.5口	
高3	原田俊雄
協賛6口	
高10	松藤欽一
協賛5口	
中46	前原弘
中47	徳永樹夫
中48	宮本弘道
中52	大内礼三
中55	諸藤寿孝
中56	成清良孝
高1	松藤惟
高1	與田博利
高2	小野善睦
高2	匿名T・M
高2	山下武辯
高3	一郡
高3	新谷弘之
高4	新谷弘実
高5	安藤祥介
高5	津留清水
高5	岸栄洋
高5	吉開孝一
高5	田中禮二
高5	松永肅
高6	戸上軍治
高6	藤木信之
高6	川口鍵寿郎
高6	木村峯子
高6	荻島直記
高9	木村博子
高9	津留昇
高9	榎橋悠紀
高10	内山秀昭
高10	原田智
高12	野上一治
高16	椀島正司
高16	三小田雅美
高16	山口淳子
高18	福山博彰
高18	大津博
高18	松藤一信
高18	川口苦楽
高18	森田啓悟
高18	山下京一
高19	芹川季代子
高20	東寛治
高21	石川俊
高21	中島和彦

卒回	氏名
高23	佐竹優子
高24	田中知子
高26	野口佳延
高28	越智浄観
高28	吉開孝人
高30	橋爪政男
高32	八山博利
高32	森昌昌伸
高32	森谷由佳
高32	咲村あかね
高32	加藤寛樹
高33	河村佳徳
高35	山口英治
高40	武末優子
高46	三小田雪江
高51	大曲由起子
高51	諸藤恵美
協賛 0.5口	
高4	緒方常子
高23	伊藤和子
高23	末永龍介
高23	成田八重子
高23	吉村明恵

(1口 2,000円)

卒回	氏名
高16	福山一行
高17	藤木清勝
高17	藤木清勝
高17	田中幸彦
高17	龍敏彦
高17	宇木博巳
高17	北島文也
高18	中村易也
高18	中川紀代子
高18	松藤恵子
高18	西田美保子
高18	井口文章
高18	山田孝輝
高19	森田達雄
高20	石井ヤス子
高20	諸藤由美子
高20	近藤敬介
高20	井口ちづ子
高21	柿野貴美子
高21	千代島道生
高22	田島栄子
高23	下田真知子
高23	古賀恵子

卒回	氏名
高11	城島孝雄
高11	原尻満子
高11	山浦素明
高11	與田広巳
高11	秋永栄子
高11	西田孝行
高11	徳永雄三
高12	古賀アヤ子
高12	馬場敦子
高12	深谷悦子
高12	城戸ケイ子
高12	田中治子
高13	石橋正道
高13	西雅治
高13	田中利通
高13	甲木久美
高14	境サヨ子
高14	志田和子
高14	堤泰充
高14	今泉京子
高14	大村陽子
高14	松岡健次郎
高15	後藤民子
高16	角正利

卒回	氏名
高6	中村充
高6	森清旨
高6	本間洋子
高7	下田敬子
高8	後藤亨
高8	川崎悦子
高8	高石順子
高8	高津留京子
高8	堤千代子
高8	近藤程子
高8	嶋本幸子
高8	池上藤則
高8	河原通司
高8	市川玲子
高8	中川辰之輔
高8	古賀庸子
高8	中村清美
高8	田代佳子
高9	岩丸純芳
高9	原田光紀
高10	井上紀子
高10	江口武
高10	古賀雄次郎
高10	大賀朝文

伝習館東京同窓会 賛助金通信欄コメント

高6 戸上軍治

ふるさと瓦版、毎回楽しみです。新刊紹介ありがとうございます。早速購入予定です。会報誌12号15頁「17頁樋口誠佑様の掲載の「賛助金の納付に協力しましょう！」」を読者の皆さん必読して、納付に協力しましょう。

敬称略

高40 武末優子

荒木先生の還暦祝いを兼ねた同窓会が地元柳川でありました。久しぶりに、とても楽しい時間を過ごしました。

高6 中村 充

高六・三稜会幹事の皆様、次回の三稜会には、体調・金調良ければ出席したい。札幌市とは言え、熊が出る田舎に住まいおりますれば、分りやすい会場でおネガイします。

高14 境 サヨ子

会報誌ありがとうございます。編集委員の皆様会報の編集・発行お世話様です。楽しく読ませてもらっています。感謝です。

高2 廣松敏克

会報第12号をお送りいただき有難うございました。早速、楽しくなつかしく拝読いたしました。東京同窓会のみならずのご発展をご祈念いたします。

高12 古賀アヤ子

「賛助金」が納付を妨げる一因かと思えます。「会ヒ」ではないのでしょうか？ 一考下さいませ。

中54 武藤吉郎

平成22年伝習館同窓会副会長を辞任しました。私としては精一杯やりましたのでご報告します。

さて、東京同窓会報第12号拝読させて頂きました。表紙の山なら日本一の富士山又、表紙裏の緑と黄一杯の柳川の川下りの風景も素晴らしいの一言であります。江崎会長さんを始め編集委員の苦勞がよく分ります。(私も伝習館同窓生の発行しました2冊の本、むつごろうの歩み、と白雲なびくの編集委員の一人でした)今後共ご指導をお願いします。

高22 竜 美代子

編集委員の皆様、いつもありがとうございます。たいへんなご苦勞だと思ひ感謝致しております。

高校18 福山博彰

小野編集長、編集スタッフの皆様のお蔭でいつも素晴らしい内容の会報を楽しませて頂いております。盛り上げる意味で私も掲載させて頂いております。他の皆様の投稿を期待しております。

高7 龍 弘道

昭和12年生まれもどうやら高齢者の仲間入りに。今年あたり、柳川・お花での同期会が開催されないかなあ。体調に気を付けて長生きしよう。

中50 廣松親弘

会報12号懐かしく拝読しております。事務局、編集委員など皆様のご苦勞に感謝申し上げます。

高5 松尾久子

昨年末転居いたしました。いつも楽しみに拝読してました。会報有難うございました。宜しければ

会報を今後ともよろしくお願い致します。

高9 石瀬篤子

毎回会報楽しく懐かしく読ませて頂いております。学年幹事、編集委員の方々のご努力のお蔭で……有難うございます。このところ賛助金をお支払しておりませんでしたので少額ではございますが送りいたします。よろしくお願い致します。

高6 森 清旨

会報「伝習館」ありがとうございます。編集委員の方々にはご多忙のなかご苦労いただきました。深く感謝申し上げます。楽しい会報で一字残さず拝読しております。今後共宜しくお願い申し上げます。

高22 田島栄子

毎回楽しみにしております。今年は柳川を出て35年。柳川大好きです。

女42 富重信子

とても良く面白く読みました。まだまだ全部よんでいません。さしあたり送金します。表紙の裏表紙は美しい柳川ですね。又行きたくなりました。お骨折りに有難うございます。

中48 宮本弘道

学友・知人が減りました。当方、未だ国内旅行やゴルフ程度は楽しんでます。残された余命、有意義に命を重ねたいとおもっています。

高15 小河良充

未曾有の大震災時、津波は我が家の1000m程の所まで押し寄せました。家は半壊の判定を受けましたが補修も終わり生活面はすっかり元に戻りました。ただ近場の公園・広場はまだガレキの山です。但し全国の皆様のご支援により間違いなく一歩一歩復興に向けて力強く進んでいます。

高19 森田達雄

平成24年2月18日、水戸での第10回全国藩校サミットに参加致しました。熊本や富山、神戸などから、論語普及会の知人と再会し「朋遠方より来るあり」。また立花家の殿さん宗鑑氏夫妻と初めてお会いし嬉しい時間が過ごせました。ありがとうございます。 拝

高3 宮崎八千代

会報12号有難うございました。懐かしい故郷の写真やニュースにまず目を奪われ、とても楽しく拝読いたして居ります。編集委員の皆様から感謝です。

高10 松藤欽一

いつも会報誌送付ありがとうございます。7/8はゴルフコンペ幹事のため、欠席致します。同窓会幹事・会員の皆様のご健康と総会の盛会をお祈り申し上げます。

高3 酒井清行

(回顧) 昭和の少年期の敗戦(1945. 8. 15)に「國破れて山河あり」 2011. 3. 11の東日本大震災・原発事故に「春秋めぐれど山河、甦らず、ああ、如何せん。」

(現在) 原発再稼働、消費税増税か、世間の成行を老人ながら見届けたい。まだ元気です。

高17 山本祥子

所沢より下記へ転居しました。同窓会の案内が来ていませんが出席したいと思えます。よろしくお願致します。

高21 千代島道生

東京同窓会報、いつも楽しみにしております。1年前に定年退職し、大学院博士後期課程で法律の勉強しております。小学校・中学校・高校・大学と全く勉強をしてこず、いま、学生生活の真最中です。

伝習館東京同窓会決算報告書

平成23年4月1日～平成24年3月31日

単位：円

科目	金額	科目	金額
収入の部		支出の部	
普通賛助金 (郵便局)	1,189,000	会報制作費一式 (含発送)	967,445
普通賛助金 (銀行)	48,000	資料・メール便発送費	7,420
預金利息	8	宅急便送料	1,500
		伝習館生徒会報送費 (350)	6,458
		会議 (幹事会) 雑費	15,613
		コピー代	8,050
		修学旅行交換会大学生交通費	20,000
		大学生との交歓会補填	60,000
		伝習館総会広告費	40,000
		ホームページ費用	32,160
		為替手数料	524
		印字サービス料	2,800
		再発行手数料	500
当期収入	1,237,008	郵便振込手数料	28,570
前期繰越金	2,635,667	当期支出	1,191,040
内 定期預金	(1,600,000)	次期繰越金	2,681,635
計	3,872,675	計	3,872,675

次期繰越金内訳	
郵便貯金	30,280
普通預金	55,330
定期預金	1,600,000
預かり現金	996,025
計	2,681,635

総会をふり返って

高23 高田健一

初めに、実行委員を代表いたしましたましてお礼の言葉を述べさせていただきます。

平成24年7月8日(日曜日)ホテルグランドパレスにて開催した『平成24年度伝習館東京同窓会総会』に255名の多くの方々に参加いただき誠にありがとうございました。

また、24年度総会を開催するに当たり実行委員(高22、高23、高24)並びにご協力いただいた先輩、後輩の皆さまに於いては、24年度総会の準備、当日の受付、案内等々の係りに貴重な時間をつくっていただき有難うございました。皆様の協力のおかげで盛大な同窓会総会を無事に開催することが出来たと思っております。

24年度総会の準備について

平成23年10月に前回の実行委員の方に総会準備について相談に行き準備活動の開始

平成24年1月19日(木) 実行委員会

実行委員(高23、高24) 4人にて総会準備について話し合う。

平成24年2月4日(土) 実行委員会

総会に向けて先輩後輩へ協力をお願いを兼ねた新年会を開催し、意見交換をおこなう。

平成24年2月25日(土) 学年幹事会

総会準備担当、スケジュール確認、案

内状の発送について

アトラクションについて協力依頼

売店(物産品)の検討および担当学年の依頼

学年毎の同窓会名簿再確認および追加名簿依頼

平成24年5月20日(日) 実行委員会

実行委員、過去の実行委員および協力者の多くの方々の参加により、事項について打合せする。

今後の準備についてのスケジュールを決定する。

同窓会名簿の確認を行い、総会案内状の発送を決定する。

プログラムについて、講演、アトラクション、抽選会の内容について決定する。

売店(物産品)の担当者を決める。

平成24年6月16日(土) 実行委員会

出欠の葉書の整理および出席者名簿の作成。

抽選会での景品の決定。

売店で販売する物産品の発注から搬入までの確認。

平成24年7月1日(日) 実行委員会

出欠の葉書の整理および出席者名簿の作成。

出席者に配布する名札の作成。

会場のテーブル配置および席順案の作成。

配置図は7月6日までに作成。

現役学生が10名参加するので、当日の準備の手伝い依頼。

平成24年7月7日(土)

最終出席者名簿の作成および会場のテーブル配置、席順決定。

明日会場へ持ち込む物品(名札、テーブル配置図、配布資料等)の最終チェック。

平成24年度伝習館東京同窓会総会次第

1. 講演 『戦前戦後の立花家と柳川』

講師 立花寛茂氏 11:00~12:00

2. 総会 12:00~12:40

3. 懇親会 12:40~15:00

アトラクション

歌・諸藤恵美(ソプラノ) 高51

ピアノ・山岸正裕

24年度総会当日について

平成24年7月8日(日)

9時までにホテルに集合し担当毎(受付係、案内係、会計係、賛助金受付係、物産品販売係、来賓誘導係、土産・配布係、抽選会係、総務連絡係)に分散して準備に取り掛かる。10時ころには準備が終わり総会出席者を受け入れる体制が整いました。

10時過ぎには受付が始まり総会のスタートとなりました。途中いろんな問題が多少ありましたが、15時に無事総会が終わりました。

総会の反省

平成24年8月26日(日) 学年幹事会

案内係は、来場者が見てすぐ分かるよ

うに腕章等を付けたほうが良いのではないかと等々の意見があり次回への課題したいと思います。

最後に、これからも積極的に協力していきたいと思っております。また、協力できる方は是非参加願います。

賛助金のお振込方法

- ① 同封の郵便振替用紙による
- ② 銀行振込による

銀行名 三菱東京UFJ銀行 銀行コード(0005)
支店名 駒込支店 店コード(061)
普通預金
口座番号 1073673
口座名 伝習館東京同窓会

いずれのお振込の場合にも必ず回生又は卒業年度をお書き下さい。

平成24年7月8日（日曜日） 於：ホテルグランドパレス

単位：円

科目	金額	科目	金額
収入の部		支出の部	
男性 166名 @10,000	1,660,000	案内状等印刷物発送一式	283,671
女性 75名 @9,000	675,000	返信はがき受け付け費用	55,860
学生 11名 無料	0	総会用印刷物他雑費	22,168
不明金	1,000	小計	361,699
ご来賓 5名 ご祝儀	60,000	宴会費（ホテルグランドパレス）	2,011,296
小計 257名	2,396,000	講演謝礼（立花寛茂様ご辞退）	0
売店売上	170,300	出演謝礼（ピアニスト諸藤恵美子）	100,000
小計	2,566,300	来賓お土産・売店用菓子	31,320
賛助金より補填	224,241	宴会酒類・売店販売品・出席者土産	286,106
		振込手数料	120
		小計	2,428,842
合計	2,790,541	合計	2,790,541

※講演いただきました立花寛茂様は謝礼をご辞退されました。ご厚情かたじけなく深謝申し上げます。

1732.000
14890

母校だより

平成24年3月進路実績（ ）内の数字は合格者人数

国公立大学合格者 134名

東北大	(1)	大阪大	(3)
九州大	(17)	お茶の水女子大	(1)
東京外国語大	(1)	千葉大	(1)
東京農工大	(1)	横浜国立大	(1)
広島大	(3)	山口大	(3)
九州工業大	(6)	福岡教育大	(9)
佐賀大	(29)	長崎大	(10)
熊本大	(13)	大分大	(2)
宮崎大	(3)	鹿児島大	(6)
国際教養大	(1)	横浜市立大	(1)
北九州市立大	(6)	福岡女子大	(3)

など

準大学校合格者 18名

防衛大学校	(15)	(1次合格者68名)
水産大学校	(3)	

私立大学合格者 445名

早稲田大	(3)	慶応大	(1)
明治大	(10)	青山学院大	(3)
立教大	(1)	中央大	(3)
法政大	(3)	東京理科大	(4)
同志社大	(19)	立命館大	(37)
関西大	(3)	関西学院大	(3)
西南学院大	(85)	福岡大	(118)

など

公務員合格者 8名

福岡県職員	(2)	柳川市役所	(1)
みやま市役所	(1)	佐賀県警察事務	(1)
東京消防庁	(1)	一般曹候補生	(1)
陸上自衛隊看護学生	(1)		

学年幹事会

高21 白谷政則

学年幹事会でここ数年議論されているのが『総会の時期・場所』『出欠の返信と若年層の参加が少ない』『会費と賛助金』です。皆さまも何故? どうして? と思われるかもしれませんので今までの経緯、話し合いや取り組みの様子を紹介いたします。(学年幹事会は先輩からの押し付けでは無く出席者の多数の賛同を得て決めています)

一 総会の時期と場所

① いつも七月に開催されていますが、何故暑い夏にやるの?

同窓生は高校を出たばかりの十八才から九十才代まで幅広い年代にわたり、できるだけ多くの方が出席しやすい時を考えると、年末年始・年度末・帰省や行楽シーズンを避けなければならず二月頃か六〜七月になってしまいます。夏は台風や熱中症が心配との意見もありますが、冬は風邪・インフルエンザが心配ですし、コート等でクロークも混雑し受付の時間も長くなります。総会終了後学年毎の二次会を楽しみにしている方にも日が長い夏場がいいかと思っております。総会の準備をする実行委員(四十才代から六十代前半)は一月頃から会合を重ね、特に各責任者は総会直前は毎週集まり準

備しなければならず、仕事に差しさわりが少ない六月〜七月頃が丁度いいようです。次に述べる場所との兼ね合いになります。が婚礼シーズンや株主総会等の会合が少ない時期は費用も安く会場の確保もしやすくなります。

同窓会当日だけでしたら気候のいい春秋がいいかもしれませんが色々事情を考慮しての七月開催となっております事をご理解願います。

② ホテルグランドパレスが定番だけどもっと安いところはないの?

グランドパレスは大大先輩の関係で四十年以上前から利用してはいますがもっと安いホテルや会場があるのではないかとこの意見があります。以前の総会は簡単な事務報告と会食だけで出席者は一〇〇名ちょっと、大した盛り上がりもなく若い人はもう出たくないと思うような集まりでした。現在の総会は出席者の皆さんに楽しんでもらえるよう講演会・総会・懇親会・郷土物産販売・アトラクション・抽選会と盛り沢山の催しで、九時前の準備からお開きまで六時間以上要して会場は大(総会)中(講演会)小(準備室)個室(来賓ゲスト用)と四部屋使用しています。懇親会は学年別のテーブル席でゆったり、一時間位の延長は無料、酒・焼酎・ウイスキーの持ち込み可、物産品等は一週間前から預かりOKなど色々便宜を図ってもらっています。都心の一流ホテルで一人八千円。(会費一万円ですがホテルへの支払いはだいたいこの位です)これって高いのかなあ? 飲

み食いだけでしたら高いでしょうし決められた時間や窮屈な席でしたらもっと安い会場もあると思います。しかし、同期だけでなく先輩・後輩との交流、母校愛・郷土愛を育む場として同窓会は時間もスペースもゆつたりしたのがいいと思うのですが: 皆さんどう思われますか?

二 出欠の返信と若年層の参加が少ない

① 総会への出欠返信が50%何故?

五年ほど前に会員名簿を整理データ化し宛先不明は少なくなりましたが肝心の出欠返信まで減っています。返信率が半分では出席人数もわからず、郷土物産の手配(半月前に発注)酒類の持ち込みもアバウトになってしまい飲み物は足りるか? 物産品が売れ残ったかどうか? と心配です。会議の席でもどうすればいいのか解決策が見つかりません。こればかりは同窓生皆さんの良識を信じ返信を待つしかありません。とりあえず、学年幹事は各自同級生には必ず返事するよう呼びかけています。返信が少ないと肩身が狭いので:

② 若年層の参加が少ない

出席者が一人や二・三人の学年がありますが頃合いをみて学年幹事がそのテーブルに行き部活は何やってた? 出身小学校は? 友達を誘って来ればもっと楽しいよと20〜30分話し、せっかく出席したのに誰とも喋らなかつた、つまらなかつたと思わないよう心がけています。話していれば何か共通点があり実家が近か

つり同級生の子供だったりお互いびっくりする時もあります。そして、次は同級生を誘って来ようと思ってくれればと願っています。

また、九月の修学旅行の交流会には多くの現役大学生や30才代までの若手社会人が参加していますので、交流会の後短い時間ですが懇親会を設けています。若い人たちとより親しくなり、何度か会つてると若い人も気楽に参加してくれるようになりまして。たぶん十年後二十年後にはこの人達が東京同窓会を引っ張ってくれるでしょう。

伝習館は親・子・孫・曾孫と何代にも続く母校であり東京同窓会は同郷の多くの人が集まります。八月に垂見小(旧三橋町)出身の集まりがあつたようですが、それこそ、同窓会は学年を超えた自分の知らない世代の方々との交流の場だと思えます。

若い人達と接する機会は限られていますが、できるだけ多くの人が同窓会を身近に感じ、かつして重荷に思わないよう地道に続けていこう思っています。皆さんのアイデアやご意見ありましたらお教えください。お願いいたします。

『会費と賛助金』については次回報告いたします。

先輩・後輩より

最後の同期会

中56 成清良孝

「古賀隆利の娘の真理子です。わたしは川崎に住んでいます」と自己紹介した。

旧制中学さいこの卒業生である同期会は、十月二十七日（土）十二時から新町の「ニュー白柳荘」で開かれた。卒業以来初めて会うのではないか、と思う人も何人かいた。

ここ、そこで久闊を叙す、はずんだ声飛び交った。

参加者は四十人弱だったが、出席の意志はあっても、健康状態が悪かったり、介護の必要があったりして、断念した人が四、五人はいると幹事の報告にあった。確かに健康年齢といって、自分ひとりで電車に乗り、会合などにも出かけることが可能な人は、男性の平均が七十代後半というから、幹事の報告は納得がいった。

われわれの年齢は傘寿を一つか二つ超えている。いつ、どうなってもおかしくない年齢なのである。すでに鬼籍に入っている人が百二十名。約半数である。人生の終戦処理を真剣に考えざるを得ない状況に直面している。

育ちざかりの戦中戦後は未曾有の食糧難の時代だった。充分な栄養を摂取できなかったために、血管や内臓が脆弱だと言われてきた。なんとかご馳走を食べられるようになったら、今度は成人病の心配をしなければならなくなった。まさに悲劇の世代である。

しかし、それにしては百四十八名、どっこい、したたかに？ 生きている。会が終わって、下川哲郎君の車で、母

平成二十四年七月八日（日）に、二年に一度の伝習館東京同窓会が、ホテル・グランドパレスで開かれた。参加者は三百名になんんとする盛会だった。

いくつかの挨拶めいた話の後、壇上に伝習館同窓会と染めぬいた法被を着た七、八人が並んだ。三十四回生だという。十月上旬、柳川で開かれる全体の同窓会の実行委員たちのデモンストレーションなのであった。

しばらくして、その人たちの何人かが、鬼丸敏男さん、柴明さん、わたしの三人が座っているテーブルにやってきた。一面識もないのに何ごとならん、といぶかっていると、実行委員長と名乗った人が、

「境賢一の息子の明展です。父は十月の終りの同期会の世話人代表をしています。年齢的にもさいこの同期会になるので、東京在住の人たちも万障繰り合わせて御出席下さい、という父からの伝言です」

と言った。同じ法被姿の美貌の女性は、

校の三稜会館の横に建立されている殉難の碑にお詣りに行った。松本学さん同乗。

在学中の最大の痛恨事は、昭和二十年八月七日、中学三年のとき、学徒動員で大牟田の工場に徴用されて就業中、アメリカ空軍の爆撃で、昭和十七年入学四名、昭和十八年入学十三名が犠牲になった。

碑面には次の文面が刻まれている。

第二次世界大戦は、多くの青春を戦場に送った。銃後はまた学業にいそむ学徒を軍需工場に徴用し、ために昭和二十年八月七日の大牟田大空襲は、わが伝習館学友十七名の尊い生命を奪った。学窓を慕いつつも、再び母校に還ることのなかった友の幽魂を哀悼し、その求学の精神を追懐して茲に殉難涙痕の碑を建立する。

昭和十七年・十八年入学生一同

紅顔の表情のまま、あまりに短い生涯を終えた旧友たちを偲びながら、その冥福を祈った。

幹事は境賢一さんのほかに古賀俊郎、成清真久、大橋明のみなさん

草野球と甲子園

高3 高椋重夫

私が旧制中学伝習館に入学したのは、終戦直後の昭和二十一年（一九四六）年で、第二十八回全国中等学校甲子園野球大会が西宮球場で復活した年である。戦時中は教室も未整備、グラウンドも半分は畑となり荒れ放題だった。母校のクラブ活動も野球・水泳・テニスだけは注目されていたが、それ以外はまだ軌道に乗るにはほど遠い感じ。

でも我々は、暇さえあれば草野球に熱中していた。野球好きな学友の誘いが発端で十数名がいつも放課後グラウンドに集まっていた。同期で数年後野球部キャプテンも務めた山本くんも、時々参加していた。当時はボールやグローブもなく、自分でコルクを糸で巻いた手作りのボールや、木の枝を伐採しバットを手造りして、三角野球（二塁ベースなし）を楽しんだ。今では考えられないようなことばかりで、今も記憶に残る青春の思い出である。仲間と会うと

「あの頃は楽しかったな〜」
「いまだに忘れることができないよ…」

とこの話題になる。

当時、わが伝習館は九州随一の剛球投手といわれた山田善作投手（八幡製鉄入社）を擁していた。河野投手（西鉄ライオンズ入団）の修猷館、大津投手（西鉄ライオンズ入団）の明善校、福島投手（早稲田大進学）の小倉中学、平島投手（慶応大進学）の八女中学、剛腕・原田投手を擁した熊本商業等々の強豪とも練習試合では互角の試合をしており、マスコミの評価も高かった。現在のように野球主体の私立学校もまだなく、強豪チームはいずれも伝統ある藩校である。後に甲子園大会にもよく出場した権藤投手（阪神タイガース・大洋ホエールズ）の柳川商業、板橋投手（法政大・八幡製鉄）の三池中学等は、まだ注目される存在ではなかった。

野球部の対校試合は草野球の仲間と共によく見た。最大の思い出は昭和二十二年（一九四七）年の第二十九回全国中学・福岡大会決勝戦である。マスコミの予想通り、伝習館と小倉中学が決勝戦まで勝ち残り優勝を争い、その応援に北九州・小倉球場まで遠路はるばる足を伸ばした。伝習館はそれまで一度も甲子園へ出場していないので、この絶好のチャンスを生かしぜひ甲子園大会へ駒を進めてほしかった。山田投手、キャプテンの石崎遊撃手、木下中堅手は、同じ町内の先輩で親しかったので、応援にも一層熱がはいった。

観覧席は三塁側の地元小倉の応援団よりも、遠路はるばる柳川よりかけつけた

一塁側の方が多く非常に盛り上がった。

伝習館は山田・内田、小倉は福島・原のバッテリーであるが、大接戦となり両エースの好投で九回まででは勝負がつかなかった。延長十一回スクイズで勝負がつき、一対〇で残念ながら強豪小倉中学に屈してしまった。

小倉中学は前年に引き続き福岡県代表として甲子園に駒を進めたが、あれよあれよという間に全国大会でも優勝してしまった。翌年からは学制制度が変わり、全国高校野球大会がスタートしたが、その第一回大会も小倉高校が全国制覇し、結果的に中学・高校を通じ連覇した。わが母校が甲子園に駒を進め得たとしても、それなりの成績は収めることができたとすると、小倉に甲子園出場を拒まれたことが残念でならなかった。

わが母校の甲子園出場は、その後も未だに拒まれ続けており縁がない。柳河小学校から中学・高校まで同期で、野球部キャプテンまで務めた山本くんが、リタイア後は、母校の野球部を先輩として直接バックアップしていた。小倉に惜敗し甲子園出場を拒まれた折は、ベンチ内でそれを直接実感しているだけに、その悔しさは我われとは比較にならないほど大きかったと思う。山本くんの気持ちもよく理解できるし、今後を期待している。

小倉中学との激戦後、既に六十年余り経っているが母校の甲子園への道はほど遠く実現していない。我々が健在なうちに甲子園出場の夢を是非実現してほしい。春・夏の甲子園高校野球大会の時期が近づくと、未だに果たせぬ「甲子園へ

の夢」がいつも思い浮かぶ。

わが伝習館の スポーツの黄金時代

高5 阿津坂林太郎

昭和26年 男子水泳部日本一に

朱子学者安藤省菴の教えを教育理念とし、文武両道を教育実践の目標とした藩校「伝習館」が柳川の地に設立されたのは文政八（1824）年のことであった。伝習館の学風は文武両道を唱え乍らも、藩祖立花宗茂公以来武芸にプライオリティ（力点）が置かれ、学習面でも、教授の講義・試験以外は武芸修行のための欠席が公然とみとめられていた。それは、西に鍋島・東に有馬・南に肥後の雄藩に囲まれるという地政学的理由からも、柳川藩にとっては武芸に力点を置き秀でることがどうしても必要であった。従って伝習館においては武芸に秀でた伝統が連続として育成され受け継がれてきた。この武芸尊重の伝統が最も輝かしく花開いたのが、我々同期生が在学した昭和26年から28年ではなかったろうか。この3年

間がわが伝習館スポーツの黄金・ピラミッド時代だったといえなくもない。

こんな伝統ある伝習館高校に入学したのは昭和26（1951）年であった。

この年の8月1日・春日原球場において、甲子園行きのキップを手中にすべく小倉高校に挑んだ。小倉高校には3年前、我が伝習館は当時県内一の剛球投手「山田善作」投手を擁して、死闘に次ぐ死闘を演じたが延長14回の末1対0で涙をのんだのだった。

小倉高校は昭和22年、23年と甲子園で連覇したチームではあったが、わが伝習館は捲土重来を期して闘ったが又しても7対0で敗れ、同窓生の多くは悔しい思いの底に沈んでいた。

そんな矢先に、全同窓生、柳川市民が小躍りするような朗報が飛び込んできた。8月23日の水上高校東西優勝争奪戦において、わが伝習館は東の伊東校（静岡県）に勝って見事全国制覇の快挙を成し遂げた。8月24日の朝日新聞朝刊運動欄は3段抜きで「八百リレーで決まるという際どい接戦であったが、伝習館が僅かに勝利・優勝した。（中略）自由型で見応えのあったレースは4百と千五百で、高校でいま最高の力を持つ石橋は千五百で、伊東の川口を五メートル離し

楽々と勝った。伝習館は長距離の横田を二百と四百に出したのが成功で、彼は二百で勝つと共に四百でも4分55秒6で優勝した。また（同期生の）古賀 学君も弱冠1年生ながら百メートル、二百メートルリレーで活躍した。」と報じた。この大会については、出場者の体験をも

とに、高校2回卒の酒井清行先輩も、本誌創刊号に「伝習館水泳部の最も輝いた日」というタイトルで5頁に亘って詳述

されている。因みに、古賀 学君は、百メートル自由形で昭和29年から四連覇を計5回の水上全日本選手権の覇者となつてゐる。彼は早稲田大学に進学し、昭和31年のメルボルンオリンピックに出場し八百リレーとして堂々の四位に入賞した。夏休み明けの北校舎体育館での祝勝報告会で、二百リレーの第一泳者の古賀君は張り切りすぎて、パンツの紐が切れ、水の抵抗が増して苦戦を強いられた旨のエピソードが監督の緒方勇雄先生から披露された。

なお、男子バレー部も鹿児島城址公園で行われた全九州高校大会で準優勝して次年度の活躍を予感させた。スポーツと言えば日本人として初めて第55回ボストンマラソンで田中茂樹選手が優勝して話題を振り撒いた。

昭和27年 女子バレー部全九州大会優勝・男子バレー部山形国体で準優勝・野球部三度目の正直ならず

この年に我々同期生は進級して二年生となった。スポーツ（運動競技）においては優勝と準優勝の間の差は雲泥の開きがあるといわれる。女子バレー部は九州大会で優勝を遂げたが、男子バレー部は山形国体で、名門・藤沢高校に接戦につき接戦の末頂点に達せず、野球部も県大会決勝で三度目の正直とはいかず悔しい思いの年であった。

それでは、まずバレー部の活躍ぶりか

ら述べることにしよう。

全日本高校バレーボール選手権は8月8日・藤沢市（神奈川県）で開催された。わが伝習館は初戦に前年優勝の岡谷南（長野県）と当たり2対0で快勝した。

二回戦は旭川西に2対0、三回戦も和歌山商を2対0で退け破竹の勢いで勝ち進んだが準決勝で地元の横須賀高に2対0で敗れて決勝進出を阻まれたが勝負度胸は身についたようだった。この大会では古賀耕造、龍 昌生、佐藤 孝君等が活躍した。大会終了後選手達は、佐藤君の兄さんの粹なはからいで、松竹の大船撮影所を見学するという幸運に恵まれた。そこで、折柄の映画に出演中であった人氣女優の桂木洋子さんを入れて一緒に記念写真を撮ったという。その写真を教室で見せられた時ほどスポーツ選手に羨望の念を抱いたことはない。

かくして、先に男子バレー部の活躍が予感されたと述べたが、ついにその日がおとずれた。

わが伝習館男子バレー部は山形国体で快進撃を続けて、決勝の日は来た。時は10月22日、場所は山形市営コート、正式名称は第7回国民体育大会高校男子バレーボール決勝戦。対戦相手校は8月に敗れた横須賀高を相手に優勝した藤沢高であった。翌23日 朝日新聞朝刊運動バレーの項は、「高校では予想通り藤沢（高）が全日本高校に続き国体初優勝を遂げた。藤沢の橋本、沼上、林、田中の攻撃力はさすがで、右に左に自由自在の攻撃はさすがにたしかに一日の長があった。最も苦戦だった伝習館も前半のり

ードをじりじりと追いつめたあたり優勝チームにふさわしい実力を示したものと

いえよう。二位となった伝習館は木下、石川など好プレーヤーを持ち藤沢に少しも劣らない好チームで決勝でも再三藤沢を破るチャンスをつかみ乍ら惜しくも優勝を逸したのは単調な攻撃が原因であったが、正に不運といふべきだろう。まず1セットも与えず決勝に進んだ伝習館の善戦を賞するほかない。」と記者の目で講評している。この戦況を同期生の龍

昌生君の「うぶすな」所収の「オヤジ（中島時夫先生）さんを偲んで」件りで語って貰うことにする。「チームの調子も最高潮で、スタートからリードして11対3でチェンジコート、一気に勝利かと思つたが、相手もさるものジリジリと追いつげられ、ついにジュースとなり24対22で惜しくも1セット逆転負けで落とし、次のセットに期待した、しかし2セット目も1セット目と同じ24対22の決勝戦に相応しい大接戦で惜敗、ついに日本一の夢が達成できず残念でなりませんでした。」と、古賀耕造君談では正に試合が決まろうというクライマックスの直前に居ても立っても居られなくなった監督の中島時夫先生の姿はみえなかつたという。千載一遇の優勝のチャンスを逸した無念さは選手ばかりでなく伝習館同窓生の大半が共有したと思うが如何であったろうか。更に特筆すべきことは第5回全九州高校バレーボール決勝戦で伝習館女子バレー部は対戦校の熊本第一を第1セット21対17、第2セット30対28で破つた。その勝因は伝習館のサーブ力が勝負

た。その勝因は伝習館のサーブ力が勝負

の明暗を分けたという。この頃が、後にも先にもないわが伝習館バレー部の全盛時代であったといえないだろうか。

「追記」

古賀耕造君とは私が伝習館に入學する以前に鮮烈な出会いというより正しくは彼を見た。藤吉日月先生に引率された柳城中学バレーチームが矢留中学へ対抗試合に来た。試合はパワー・技量共に勝る柳城中が圧倒的強さを発揮して矢留中学を一蹴した。その試合に出場していたのが古賀君の外その後伝習館のバレー部を背負って立つ、内田 栄、牧賢太郎、龍昌生君らであった。古賀君は伝習館から明大に進学し、1年生からレギュラーを張り、2年次の大学選手権優勝・3・4・年次の大学リーグ戦では春・秋優勝し、特に4年生の時はキャプテンを務め、明大バレー部黄金時代の立役者となった。明大卒業後は、富士フイルムに入社してバレー部を創設し、チーム編成にも奔走して怠らず、後に東京五輪にも出場した超大物ルーキー小山 勉を入部させてこの会社のバレーチームの全盛時代を築いた。更に定年近くになって、乞われて、松平康隆日本バレー協会長、小山勉専務理事の下、Vリーグの発展に向けて会社で培ったビジネスの面での実力を発揮して、協会の発展に大いに貢献した。

伝習館は、遂に福岡県代表をかけて三池高と覇権を争うこととなった。この試合は我が伝習館は1回表、幸先の良い先取点を取り、安部仁孝君の快刀乱麻の投

球が期待されたが、余りにも優勝を意識してか地に足がつかず3・4・5回にエラーが続出して三池高に得点を重ねられ、12対4で敗れて甲子園行きの三度目の正直も夢と消えた。この大会では安部・古賀敬止(リリーフ)・藤根作一(捕手)・江中岩男(サード)・藤丸四郎(セッター)・山下昌則(レフト)の各君の活躍が目立ったがレギュラーの中5名が若い同期性という若いチームであった。

爾来、伝習館において、バレー部でも、野球部でも、決勝まで歩を進めたという記憶がない。この年の7月、戦後初参加のヘルシンキ・オリンピックが開催された。ふじやまの飛び魚と謳われた古橋広之進は四百自由形で8位に終わった。優勝したのはフランスのボワトウで、父親が悦びのあまりプールに飛び込んで世界中をアツといわせた。常に古橋の陰に隠れていた橋爪選手は自由形千五百メートルで銀メダルを獲得して一人気を吐いた。

昭和28年、女子陸上奇跡の優勝―立石先生の歓喜の雄叫び競技場に轟く―

頃の文句じゃないけれど、我々同期生は高校3年生となった。この年の8月16日・横浜市三ツ沢陸上競技場において、わが伝習館女子陸上競技部は空前絶後の奇跡の優勝を成し遂げた。この瞬間・立石先生の歓喜の絶叫が競技場に響き渡ったとは本人の弁。3年次担任であった先生からは教室内でも、先生の自宅でも何度もこの場面の話を聞かされた。この大会の全貌については立石先生の手になる

「うぶすな」所収の「秩父の宮杯第6回全国高校陸上競技大会女子総合優勝祝賀会に於ける立石勝美先生の戦況報告」というながいタイトルでまるとなまの実況放送の如くつづられているのでご覧いただきたい。優勝が決まる最後の四百メートルリレーについて、立石先生は、まず福山選手、スタートダッシュ物凄く、見事なフォームを見せながら、第2走者岩丸選手、主将の貫録を見せぐんぐん出て、古川さんにタッチ、古川さんは足の痛みをこらえて、足も折れよとばかりに頑張り通し、アンカー城島選手にバトンタッチ。その時は岡山の美作に2メートル遅れ第2位。40・50・美作トップ、2メートル遅れて第2位と並び満場騒然。ラストスパート物凄く名刀の切味にて70・で完全に抜き3メートルの差で我が城島選手によってテープは切られました。その瞬間、伝習館の全国制覇は達成されたわけです。最後のドキドキワクワクのレースを冷静につづられています。たった4名の選手で優勝を攫うという前代未聞の奇跡と翌日の新聞報道にありました。主将の岩丸絹子さんは、この予想外の優勝を、やはりあれは「柳川生まれの神様」が「幸運を三ツ沢競技場に一心に集めて下さった出来事」とその時の感激を「うぶすな」の記事のなかで述べています。この陸上の総合優勝は、同期で主将の岩丸絹子さん、古川美津江さん、2年生だった城島祥子さん、1年生だった福山さくらさんのそれぞれの人生に大きなやくわりを果たしてきたと想像するが如何であろうか。我々

同期生にも限らない勇氣と感動を与えてくれたことに大いに感謝したい。

あれからタイム・スリップした30年後に立石先生のもと、打って一丸となって優勝を成し遂げたアスリート3人の姿がかつて優勝を勝ち取った横浜の地永江秀作郎にあった。立石先生を尊崇してやまない永江君は、新築祝いを兼ねて上記4人を自宅に招待した。再度の祝勝の祝いの宴は嵩子夫人の手料理に舌鼓をうちながら進行し、当夜は立石節の躍如とした語り口と尽きぬ懐旧談に花が咲いて時の経つのも忘れる至福感に浸った。立石先生の「鶴の一声」で急遽私も呼ばれたという訳である。

これまで「伝習館スポーツの黄金時代」の一端を記してきたが、これらの栄光は一朝一夕になったのではなく、人並み外れた各々の選手の資質プラス弛まぬ努力と更に強運が相俟って生み出された成果だと考える次第である。この栄光の感動に一部でも共有できた我々は、誠に幸せであった。個々の当時の選手に心から「ありがとう」と申し上げるものである。

註・還暦記念誌「うぶすな」

伝習館高校第五回卒業同期会編
平成十年五月刊三二九頁B5判

私は、こうして 地域活動を始めた

高5 下河秀行

おぐに古楽音楽祭からスタート

私は、定年を迎えるずっと前の一九八九年（平成元年）から、趣味の音楽分野のボランティア活動を始めた。福岡の音楽愛好家が集まって、「十八世紀音楽祭協会」を立ち上げ、試みとして福銀大ホールで「東京バッハ・モーツァルトオーケストラ」の演奏会を二夜連続公演を行って超満員の盛況で成果を上げた。

それがきっかけとなって、熊本県小国町でバロック音楽を主体にした「おぐに古楽音楽祭」を世話人として皆さんと共に企画し、スタートさせた。十七世紀から十八世紀にかけて、バッハ、モーツァルト、ヴィヴァルディなどの作曲家が作曲したものを、当時のオリジナル楽器を使って演奏する音楽会で、当時の宮崎小国町長等のご協力もあり、小国の「木魂館」で九年間も続けた。

しかし、同協会世話人が高齢化したこ

とと、会場のキャパの問題や世界から来演していたく海外演奏家のことを考えて、一九九九年から会場を福岡に移して、名称も「福岡古楽音楽祭」（四日間）と変更した。毎年、全国各地から古楽ファンが駆け付けており、大変好評で全国に名が知れる福岡古楽音楽祭となった。

練馬で、まちづくり活動

次に東京に赴任して来て、ゼネコンの仕事の関係もあって、まちづくりや都市計画に興味があったので、「NPO練馬まちづくりの会」に入会し、練馬区で約七年間（理事）の地域活動を行い、個人として都市マスタープランや都市交通マスタープランの作成に関わり、練馬区のまちづくり条例の制定にも関わってきた。

その後、地元石神井地区のまちづくりに関心があり「石神井公園駅周辺地区まちづくり協議会」に参加した。ここでは副会長として石神井のまちづくりに日夜努めてきた。

A. 交通問題、B. 土地の利用、C. 地域コミニティ、D. まちの活性化の4つのテーマに取り組んで来て、その成果を練馬区長に提言して、現在は、その提言に基づいて、石神井のまちづくりが全体構想に基づき進められている。

提言直後、私たち仲間は、「石神井まちづくりの会」（代表）を立ち上げて、開かずの踏切で困っていた西武池袋線の練馬高野台駅～石神井公園駅～大泉学園駅までの連続立体高架化事業実現のために署名活動を行って、国交省・東京都・練馬区・西武鉄道と交渉を重ねて、平成一九年八月から高架工事が進められており、石神井公園駅前までの高架化による複々線が昨年五月開通し、大変便利になった。

今年三月一六日には、西武池袋線～東京メトロ副都心線（新宿三丁目・渋谷経由）～東急東横線が相互乗り入れすることになっており、練馬から、横浜元町や中華街まで、乗り換えなしの直行電車が走ることになる。広域交通網の完成である。

その他、石神井公園駅南地区のまちづくりで「地区計画」を昨年七月策定し、議会で条例化された。

石神井のまちづくりは、まだまだ限りなく続く。

地元では「学校支援と歴史講座」を開催

それに加え、自分が住んでいる地域社会への貢献もしなくてはと考えて、平成二一年から練馬区十二番目の「南田図書館」が出来たのを機会に、地域住民と一緒に、地域活動として「南田中のまちを考える会」（代表）を立ち上げて、三つの活動を行っている。

①地域の三小学校の「学校支援」を始めた。地元にながら、地元のことをよ

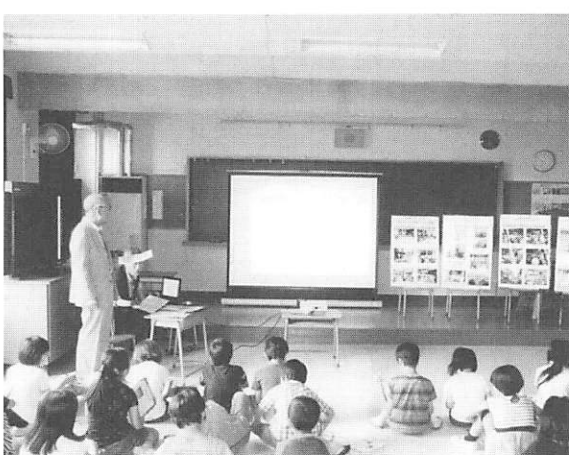
く知らない父兄や小学生を対象に、社会科学授業として、パワーポイントを使って校内で、「地域調べ」と、校外では「まち歩き」の授業を毎年行っている。

授業のキーワードは、「地元をよく知り、地元を誇りを持とう！」

②また地域の歴史と文化を学ぶシリーズとして、練馬まちづくり「歴史と文化講座」を年間二回開催している。昨年十月には、NHK大河ドラマ「平清盛の舞台裏」の講座を行った。講座は、テーマと講師の交渉を一手に引き受けて、お陰様で毎回応募者が多くて超満員の盛況である。

最後に、町会からの地域情報が少ないために、

③「南田中まちづくりニュース」を編集して四〇〇部を年間三回発行し、地域情報を提供している。町会回覧板とは違った形で、先進的な地域情報の提供に



小学校の社会科学授業支援の風景

努めている。読者からの反響が何よりの楽しみで、期待される新聞作りに努めている。

超高齢化社会で、福祉のまちづくりを

ウエルカム石神井公園は、平成十四年（二〇〇〇年）に特定非営利活動法人資格を取得したNPO福祉サロンの二部門として、練馬区の「地域福祉相談情報ひろば事業」及び「商店街空き店舗入居促進事業」の助成を受けて設立した。

都市化が進展した昨今、地域のつながりが希薄化し、地域住民の孤立、地域コミュニティの活力低下といった様々な悪影響が指摘されている。私たちウエルカム石神井公園は失われつつある地域の絆を再興し、潤いのある地域社会の実現を目指している。

都市のまちづくりは、超高齢化社会を迎えて、福祉の問題を抜きには考えられなくなった。

それで、平成一九年練馬区と協働して相談情報広場NPO「ウエルカム石神井公園」の立ち上げに参加した。

即ち、高齢者、一人暮らし、子育てのお母さん方をサポートする「相談情報ひろば」を開設して、いろいろな相談にのっている。NPO「ウエルカム石神井公園」が目指している3本柱は、

一、生活支援事業：家事の手伝い、高齢者のための店づくり、高齢者のシェアハウスづくり。

二、生き甲斐活動：高齢者・障害者の仕事づくり、シャンソン・パソコン・太

極拳の各教室の開設。

三、困り事相談事業である。様々な困り事相談や、心配ごとの相談広場などがある。

それぞれが得意な分野を担当して、地域の高齢者や障害者から大変喜ばれている。

その他、趣味の音楽関係では：

その他、私設「グロリア音楽企画事務所」では、クラシック音楽関係で、娘でフルート奏者のコンサート企画、若手音楽家をサポートしたり、中・高年のために「練馬シャンソン教室」の主宰している。

シャンソンは、古いと思いきや五十代〜七十代の方々が、現在三十数名の生徒さんが楽しそうに受講されている。

講師の先生は、プロのシャンソン歌手をスカウトしたり、生徒募集したり、種々大変であるが皆さんに喜んでいただくことが何より幸せである。

また高齢者の仲間づくりでは、NSN（ねりまシニアネット）の「楽友会」で会長を務めて皆さんのお世話をしている。この会は気楽で楽しい。

私は、ゼネコンに勤務し、平成四年福岡から東京本社の営業本部に勤務するようになり、中央官庁を担当しながら、地元では一人の外様として大都会の地域社会にとけ込んで、地域活動することになつてまだ十数年と日が浅いが、何ら抵抗もなく活動出来ることは幸せである。

このように実に多忙な日々であり、

人々のお世話をしながら元気に地域活動が出来たことは、それが私の生き甲斐と健康法にもなっている。

北京・西安旅行記

高7 大藪成人

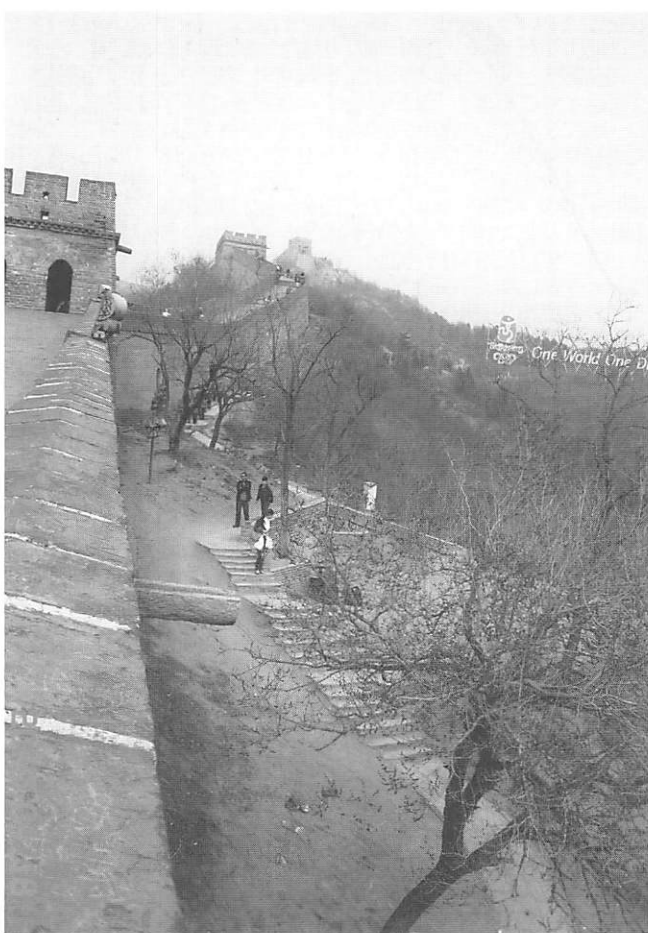
旅行会社を利用しての海外旅行の最後は中国の北京・西安旅行にしようと思つた。

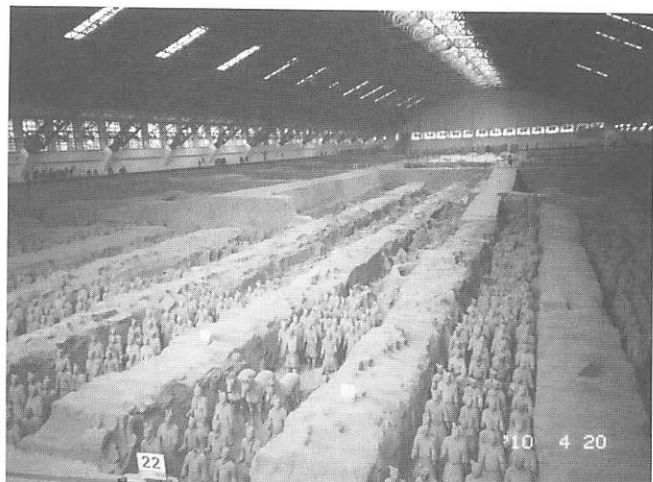
ていたので2010年4月に夫婦で行つてきました。

成田空港から上海までは約3時間5分、日本との時差は1時間です。上海空港から北京までは約2時間25分です。北京・上海の空港ともに非常に大きいです。

北京空港にはこれから現地を案内してくれる中国の若い女性が旅行会社の旗を持って待っていてくれました。夕食は北京市内のレストランで中華料理でした。ツアーの仲間はさつそく紹興酒を飲んでいました。期待していた中華料理は日本で食べるのとほとんど変わりませんでした。

次の日のホテルでの朝食はバイキングでヨーロッパ旅行で体験した食事とほとんど変わりませんでした。ホテルを出て





感じた街の感想は高層ビルが多いことと日本の車が沢山走っていたことです。それと黄砂とスモッグが多く晴れているのにどんよりと曇っている感じでした。

バスに乗って西太后が愛した頤和園（いわえん）、明十三陵（みんのじゅうざんりょう）を見学しましたがそのスケールの大きさに感動しました。午後には私が最も行きかけた万里の長城（八達嶺・はったつれい）を見学しました。長城を実際に歩きましたが坂が急で上がったり、下がったりするのに息が弾みませんでした。北京の市街と同様に空は晴れているのに曇っている感じでした。

ホテルに帰る途中バスから北京オリンピックが行われた鳥の巣を見てきました。夕食は北京ダックでした。

次の日は天安門広場の見学から始まりました。中国の政治の中心地で広い広場の回りには近代的な建物が建っています。対照的に向かい側には明・清時代の政治の中心だった赤色の建物（故宮）があります。天安門広場との間は自動車が沢山通っている為、人は地下道を通って行きます。故宮はスケールが大きく綺麗でした。次に天壇公園に行きました。明・清時代の皇帝が天に祈り、雨を祈願し、五穀の豊作を祈願する所で広い公園でした。

夕方北京空港から西安へ向かいました。飛行機で約1時間50分です。西安の第一印象は北京に比べて落ち着いた都市と言う感じでした。

西安での最初の見学地は大雁塔（だいがんとう）でした。三蔵法師の偉業を讃える塔です。イタリアのピサの斜塔に似て少し傾きかけているそうです。建て替えるにしても資金がないので資金集めの為、寺の総責任者が中国の有名な書道家であることを利用して、この人の書を掛軸にして3〜5万円（文字によって値段は違う）で売っていました。私は大雁塔の建て直しに少しでも貢献出来ればと思い「和」という字が気に入って、掛軸を記念に買ってきました。

次に西安郊外の見学となりました。初めに唐代中期に玄宗皇帝が楊貴妃（美女）と過ごした華清池（かせいち）を見学しました。温泉地です。この近くで昼食として色々の麺類を食べましたがそれ程おいしいと思いませんでした。午後は秦始皇帝陵兵馬俑博物館を見学しまし

た。この博物館は鉄筋作りの体育館のような建物に覆われています。いづれにしろ紀元前にこの様なものを作ったとは驚くほかはありません。秦始皇帝陵の発掘はまだ行われていません。

西安では街を取り囲む城壁をバスから見ましたが立派なもので感動しました。また西の城門はシルクロードの出発点でありますが再びこの門に帰ってきた人は非常に少なかったそうです。

西安はご存知のように紀元前から秦、漢、隋、唐など3,000年にわたって栄華をほこった都で昔は長安と呼ばれていたところです。北京に比べて遺跡はあまり残っていません。王様が変わる度に遺跡を取り崩してしまっただけです。遣唐使など日本から西安まで大変だっただ

ろうなあと思いました。旅行の最後の日は飛行機の都合と思いますが朝早く起き西安の飛行場まで行きました。

西安空港から上海まで約2時間です。OP（オプショナルツアー）として北京で京劇を西安で唐歌舞ショーを見ました。折角の機会だから海外旅行ではOPのすべてに参加することにしています。西安も北京と同様、黄砂とスモッグが多く、晴れているのにどんよりと曇っている感じでした。日本の車が沢山走っていました。日本では北京が東京、西安が奈良・京都という感じでしょう。中国と言えはトイレが汚いと言う心配を良く聞きますが今回の旅行で行った所は水洗で日本とほとんど変わりませんでした。



た。
最後に旅行社を利用しての海外旅行は
体力のある内に行ったほうが良いと思
います。

夏の夜の夢 (蟬の脱皮)

高11 龍 勝

夏の陽が沈んでいくらか暑さが和らい
でから日課の一つである夕方の散歩に出
かけますが、そんなある日散歩道の桜並
木の幹の丁度目線の位置をのろろと這
い上っていく物体が目にはいりました。
『もしかして』と近づいて見ると予想通
り蟬の幼虫でした。これから新しい生命
が誕生するという大事な時であることを
知りつつも、熱中症対策として持ち歩い
ている水筒入れの袋に取り込み急いで帰
宅し、妻にも話して庭の梅の木に放しま
した(写真1)。椅子、懐中電灯、蚊取
り線香、団扇の他麦茶まで用意して脱皮
の瞬間を撮影すべくカメラを三脚にセッ
トしその瞬間を待ちました。

蟬の脱皮なんてそうそう目撃する機会
はないので童心に返ったような気持ちで
ワクワクしながら待つこと約10分で背中



写真1



写真2



写真3



写真4



写真5



写真6

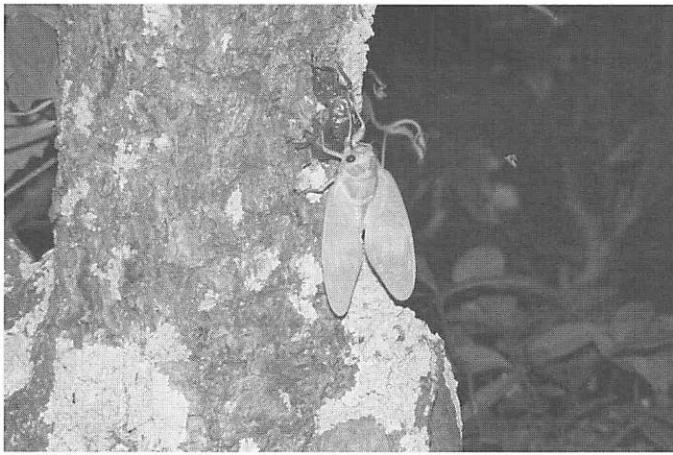


写真8

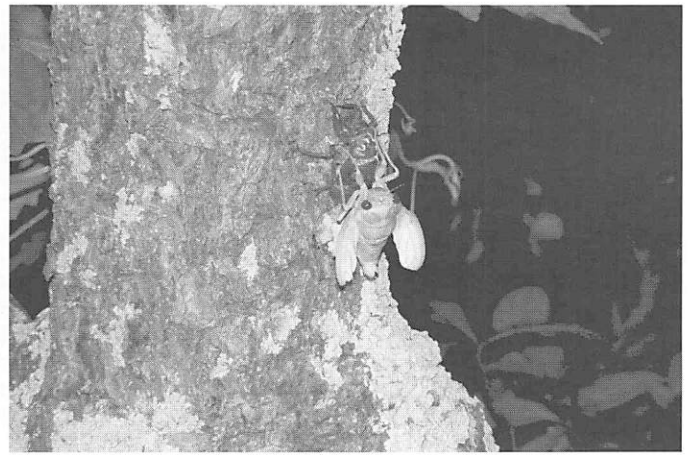


写真7

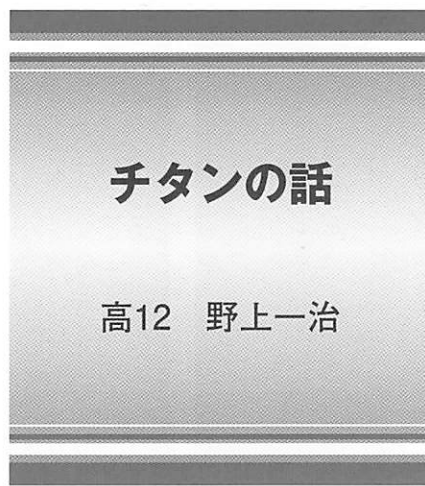
に亀裂が出来て脱皮が始まりました(写真2)。以降、全身が現れて(写真3)そのまま抜け出すかと思っていたらなんとフィギュアスケーターの荒川静香顔負けのイナバウアーが始まり(写真4)6)、殻の上に這い戻り羽と体の乾燥体勢に入り(写真7)約1時間半で飛び立ちました。

妻共々プロ野球のテレビ中継を気にしつつも童心に帰れた楽しい夏の夜のひと時でした。因みに当該蟬はアブラゼミでした。蛇足ですが柳川を始め九州には普通に繁殖し『ワシワシワシワシ』とうるさいくらいに鳴いていたクマゼミは関東には生息していないということは同窓生ならご存知だと思いますが。

続・バレーボール部余談

会報第12号のバレーボール部と恩師の投稿作は二つの思いで懐かしくも楽しく拝読させていただきました。一つ目は自身せめてあと5cm程身長が高かったらバレー部に入部していただろうと思う程バレーが好きだったこと、そして二つ目は強かった当時のメンバー表に私の従兄弟達の名前を見つけたからです。『達』と複数形にしたのは当然意味があつて、昭和27年女子の梅崎雪江(前衛左)と昭和30年男子の梅崎省二(前衛中)は姉弟の間柄で、この姉弟には年齢こそかなり離れていたものの姉弟2人もバレー部に在籍していたほどのバレー一家だったのです。私がバレーを好きになった大きな理由の一つにこの従兄弟達の存在があつ

たのはいやうまでもないようです。今は郷里柳川の状況がどうなっているか想像することすら出来なくなつてしまいました。が、半世紀も前のまだまだ超田舎だった旧昭代村の昭代中学から当時福岡県の高校バレーを牽引していた母校のバレー部で兄弟姉妹が活躍していたなんて夢のようでもあり、古い記事を紹介して下さった御二方に感謝申し上げます。



9月19日に、東京同窓会と現役修学旅行生一行との対話イベントがあつた。50歳以上の年齢の隔たりがある高校生諸君を前にして場違いな思いもしたが、幸い若い世代の卒業生の皆さんがうまく対応してくれた。最近、電車や街中での高校生の言動に首をかしげることが多いが、素直できびきびした後輩伝習館生は清々しかった。

さて、私は大学卒業後30余年公的金融に携わつたが、その後金属の世界に転じ、特に最後の8年は、金属チタンの分

野で仕事をした。チタンは一般的には馴染みが薄い。この機会に少し紹介させていただきたい。

チタンは何に使われているか。

ゴルフクラブやメガネフレームにチタンが使われていることは知られているが、時計や裝飾品、ピアカップ、フライパンなどの食器類、登山用グッズ、カメラや携帯電話の筐体等にも使われている。仏壇のお鈴も最近はチタン製が増えている。歯のインプラント、人工骨等医療分野でも欠かせない素材になっている。「軽くて」「錆びない」、あるいは「生体に優しい」チタンは、今や多様な使われ方をしている。

しかし、これら民生用に使われているのは量的にはさほどではない。最も多く使われているのは宇宙航空分野である。そもそもチタンは航空機向けに開発された金属素材である。「軽く」「強い」特性を利用するものであり、心臓部とも言うべきエンジンはチタンでなければならぬ。長年ジュラルミンが使われてきた機体にも、最近は炭素繊維複合材が使われるようになり、それに伴い、相性のいいチタンがファスナーなどにも使われるようになった。

近年、建設分野や化学、電力等工業分野においてもチタンの使用が増大している。神社、寺院、あるいは博物館やスポーツドームの屋根材にチタンが多く使わ

れるようになった。太宰府の国立博物館の屋根がそうである。古くは、福岡ドームの屋根もそうである。京都にも金閣寺の茶室ほか色々の事例がある。東京では、ごく最近、浅草寺の宝蔵門、本堂の屋根がチタンで葺かれた。系統の違うところでは、羽田飛行場滑走路の海洋構造部分にもチタンが使われた。これらは、チタンが「錆びず」、非常に寿命が長いことによる。環境保護にも資する。

工業分野では、電力、LNG等のエネルギープラントや化学プラント、あるいは船舶などにもチタンが使われる。やはり、チタンが「錆びない」ことによる。

チタン製錬の歴史と特徴

鉄や銅に比べ、チタンの歴史は非常に新しい。銅は6,000年、鉄は4,000年の歴史を持つのに対し、チタンは60年にしかならない。ちなみに、アルミは110年である。鋳石から金属を取り出す技術の開発にかかった時間の差である。

銅や鉄は、単純に言えば、火熱で熔解することで鋳石から金属が取り出せ、すでに原始時代に製法が発見された。

アルミニウムやチタンは、金属元素と酸素との結合力が強く、近代まで、酸素を引剥がす技術、エネルギーの開発を待たねばならなかった。アルミ製錬は電力の誕生により可能となった。それが110年前である。

チタンは電力エネルギーを使っても製錬に成功せず、さらに50年。鋳石を一旦

液体にし、それを還元して金属チタンを取り出すという「化学工程」による製錬技術の発見を待たざるをえなかった。

現在、鉄の生産が世界で年間14〜15億トンかと思うが、チタンは15万トン、その10,000分の1でしかない。銅やアルミと比べても極めてマイナーな金属である。チタンは、よく「レアメタル」とされるが、地球上に存する元素の量からいうと、実は、アルミ、鉄、マグネシウムに次いで4番目に多い金属である。

しかし、上述のように、実用化までに時間がかかり、しかも電力多消費の化学工程を経ることで製錬コストが非常に高つく。そのため、長年「夢の金属」と言われながら、マイナーな地位に止まってきた。そういう背景が、世界的にも、製錬能力（供給能力）拡大の制約要因になり、そのことがひいては生産量拡大のボトルネックになってきた。決して「資源」の制約ではない。

しかし、今や、航空機分野でも、その他の工業等部門でも、チタン需要のさらなる拡大が見通され、産業構造に占める位置が大きく変容しつつある。

日本の地位

世界で、現在チタンの製錬を行っているのは、主に日本、ロシア、アメリカであり、それに中国、カザフスタン、ウクライナが続く。企業数も、中国を除けば一国に2〜3社に止まる。日本では東邦チタニウム、大阪チタニウムテクノロジ

ーズの2社だけである。

特に、高度の技術、品質が要求される航空機用のチタン地金をつくれるのは、現状、日本、ロシア、アメリカだけであり、日本の地位は高い。

ところで、チタン需要は、航空機、それも軍用機に始まる。東西対立の歴史の所産とも言える。カザフスタンやウクライナでチタンの生産を行っているのも、実は、旧ソ連時代のカザフスタン工場、ウクライナ工場であったという歴史的背景がある。

それにしても、世界トップクラスの金属チタンメーカーは数社しかない中、航空機製造では欧米に劣ってきた日本が、何故チタンの生産で高い地位を占めているのか。そこには、米国でチタン製錬の勉強をした一人の日本人技術者が、帰国して独自に実用化に成功したという事実があった。そういう技術史的、産業史的背景があった。当初は専ら、地金のままアメリカに航空機用途として輸出するところから、日本のチタン事業は始まったものであった。

そして、東西冷戦の壁が崩れ、世界経済がグローバル化する中で、民間航空機需要が拡大を続け、それに伴いチタン需要も着実に伸びた。ボーイングやエアバス製の飛行機に使われる高品質のチタンのかんりの部分を実は日本から輸出している。チタン特有の歴史と地位を知っていただければ幸いである。

そして、それら海外の航空機需要とは別に、日本国内で、鉄鋼メーカー等が、

一般工業や民生部門向けのチタンの用途開発に取り組んだ結果、航空機以外の分野でのチタン需要も拡大、今や日本での地金生産の概ね5割はそれらの分野に回っている。チタンが日本が世界に誇る金属素材である所以である。

終わりに

さて、場違いかもしれないと思いつつ、今回敢えて本誌にチタンのことを書かせていただいたのは、今日本の製造業が大きな曲がり角にきている中で、北九州が重要な地位を占めていく予感がし、チタンもその一角に加わったことをお伝えしたかったからであった。

近年、福岡県を始め、九州の立地が見直されてきている。かつて八幡製鉄などを中心に栄えた北九州工業地帯が、ここに来て、金属工業、自動車工業を中心に新たな産業集積の時代に入りつつある。そういう中で、東邦チタニウムの新たな工場が、若松（製錬工場）と八幡（熔解工場）にできた。

東日本大震災での原発事故に端を発し、九州でも電力の問題が制約要因になりそうなこと、また、近隣諸国とやや政治、外交的に不安定な状況を呈していること等難しい状況が生じてはいるが、北九州経済域の新たな拡大を信じるものがある。

（平成24年9月末記）

大江の幸若舞と江戸 (東京) 人の貢献

高14 松尾 正幸

1 幸若舞とは？

幸若舞は、室町時代初期、越前の桃井直詮(幼名 幸若丸)によって始められた舞曲である。織田信長は、幸若舞の愛好者であったという。特に幸若舞曲の中でも「敦盛」を好み、日常的にも良く舞ったと記されている。永禄三年(一五六〇)の「桶狭間の戦い」に出陣する際、幸若舞「敦盛」の一節、すなはち、「人間五十年、下天の内をくらぶれば、夢幻のごとくなり。一度生を得て滅せぬ者のあるべきか。」を舞って、上洛途中の今川義元の大軍を打ち破ったのは有名な話である。

福岡県みやま市(旧山門郡瀬高町)大江に伝わる「大江のめえ(舞)」は、正式には、「大頭流幸若舞」と呼ばれ、今日に伝存する唯一の幸若舞として、日本芸能史の上でも極めて高く評価されている。

2 江戸の知識人と大江の幸若舞

藩政時代には毎年正月二十一日に、柳河藩主の鏡の祝に、国家安全・武運長久を祈って、大江天満宮の神前でこの舞を演じていたが、慶応二年(一八六六)からはその前日に繰り上げられ、現在の二十日正月に奉納することが恒例となっている。

大江の舞が藩外に紹介された初見は、文化八年(一八一)に版行された江戸後期の戯作者曲亭馬琴の『烹雑の記』で、その下之巻に「七、幸稚」として次のように記されている。

幸若丸勺節舞踏に妙なるよし、軍記に見えたり。其余波諸国にある歟。江戸人はしらざるもの多かり。しかるに今も筑後山門郡大江村なる農家に、代々幸若の舞を伝たるあり。又その近辺永田といふ所にも、彼派わかれて大夫かかき、何かかり(この名を忘る)などいふありて、酒宴の席、月祭日祭などいふをりには、必 招きてもて囃しつと興ずる舞なるに、今幸若の舞といへば、扇拍子にてうたふめり。これを舞とこころえたるは僻事なるべし。この大江には、むかしより伝もてる烏帽子装束あり。ふりたる幕を張り、鼓うちならして立舞と聞り。職人絵尽に載たる舞々の画像おもひあはすれば、よくこれにかなへりとぞ、西原主話談せらる(後略)。

文面からして、曲亭馬琴が実見の上で記したものは思われぬが、この文中には、当時の「大江の舞」を知る手がかりが散見される。すなはち、軍記等にう

かがわれるだけで、すでに諸国に知る人もなくなっていた幸若舞が、筑後の国で、大江とその近隣の農村長田に伝存されていたこと、そしてそれは、武家の鑑賞をはなれて、農村における酒宴の席とか、月待ち・日待ち等の信仰的な寄り合いの席に招かれて演じられる、民間芸能的な要素を持つものとなっていたこと、舞とはいいながら、扇拍子で謡うことを中心としたもので、伝来の烏帽子装束をつけ、古びた幕の前で鼓を打ちならしながら立舞う姿は、『職人絵尽』に見える「舞々」とよく似ていること、等々である。近隣の村にも舞の大夫がいたことと、折々の寄り合いの席で演じられていたというのを除けば、態様はほぼ現存の「大江のめえ(舞)」そのままであると断言できる。

曲亭馬琴の筆を借りるまでもなく、『嘉吉記』、『応仁記』等の軍記にあらわれ、室町時代から近世の元禄期あたりまでは、能楽にもさしてひけをとらないほどの勢力を保持していたという幸若舞が、それ以降急速に消滅していった中で、ひとり九州の筑後の草深い大江の農村に、農民の芸能として、全国で唯一命脈を保って来たという事は、奇跡的かつ感動的な出来事であるといえよう。

『烹雑の記』引用文最後にある「西原主話談せらる」の「西原ぬし」は、西原晁樹であるのか、その同族の西原一甫であるのか、今の所未定である。幸若舞に造詣が深かったのは西原晁樹であるが、曲亭馬琴との親交が篤かったのはむしろ西原一甫のほうであった。しかし、西原両

名は共に柳河藩に仕えた文人であり、江戸藩邸の勤番等で出府・滞在し、江戸の文化人、知識人等らとの交流・交際の中で、柳河藩内の大江幸若舞についての知識を伝達したものと推察される。

3 東京の知識人の大江幸若舞への貢献

山門郡大江村在住の松尾平三郎増埴に、山門郡小田村の重富次郎吉直元から、系図・装束・直伝正本が譲られ、大頭流幸若舞の相伝がなされたのは、天明七年(一七八七)正月二十一日であった。以来今日まで幸若舞の創始者である幸若丸の父播磨守直常から数えて三十代目、現在の幸若舞家元松尾正巳清平氏まで連綿としてその系譜が承継されている。

中世末期に筑後地方に伝えられた大頭流幸若舞が、ほぼ原型を崩していないと思われる姿で今日まで継承されていること自体、奇跡に近い事であるが、家元を中心とする同好者によってのみ伝えられて来た「大江の舞」は、中絶しなかった事のほうかむしろ不思議である。「どうして大江村にのみ今まで存続したのか？」という疑問に対しては、「家元さんを始めとした村の幸若舞愛好家の熱意です」という返事を聞くのみである。

しかし、幸若舞の大江村継承については、今まで順風満帆だったわけでは決していない。天明七年(一七八七)に松尾平三郎増埴(十二代家元)によって幸若舞が大江村に定着したが、十九代家元松尾徳藏廣綱(明治三十四〜四十五年)以後は、この舞も衰退の一途を辿る状態にな

ったという。このような幸若舞を隆盛させる契機となったのが、東京在住の国文学者、演劇研究家である高野辰之博士（東京音楽学校教授、大正大学教授等を歴任し、文部省唱歌「ふるさと」の作詞者としても著名）の大江村幸若舞鑑賞訪問であった。高野博士は明治四十一年に当地を訪れ、この舞三曲に非常に感賞し、天下一品の古典芸能であると悦び、以後益々盛んになすよう激励されたため、幸若連中はもとより、村人達も幸若舞が彼様に貴重なる芸能であることを認識したという。博士はなお一週間村に滞在し帰京した。その後村としては、この舞を永く保存する熱意漸く高まり、協議の結果、幸若舞再興の決議がなされ、村内居住者男子十七才になれば舞を習うよう義務づけられた。然もこの指導に当る責任者には、二十代家元の松尾真太平廣真氏が委嘱された。従って一挙に三十三名の弟子ができ、恒例の奉納舞には狭いため舞堂建設の議が進められ、大正三年現在の幸若舞堂が大江天満神社境内に建立された。

ここでは、明治四十一年の東京の知識人高野辰之博士の大江村来訪が、はじめて地元の人々に、「大江の舞」の価値を認識させ、幸若舞堂の建設にまで進展した事実が目撃したい。中世芸能幸若舞の全国唯一という貴重な伝存に、東京人の偉大な貢献があったのである。

大江の舞に保存会を結成させ、大江村地区と瀬高町当局が一体となって、その保存継承に踏み出したのは、「大江の幸若舞」が昭和五十一年に国の重要無形民

俗文化財に指定されたことを契機とする。舞堂が拡張整備され、衣装の新調も補助金の対象となった。後継者育成費もいくばくか計上され、今では、大江に住む者は誰でも必ず一度は舞の伝習を受ける」という不文律が定着しつつあり、そのため、大江小学校四年からの大江村の男子は、幸若舞の伝習が義務づけられている程である。

4 幸若舞から東京人への協力願い

——復元された幸若舞「敦盛」——

織田信長が桶狭間の戦いに出陣する際、幸若舞の「敦盛」の一節、すなはち、「人間五十年、下天の内をくらぶれば、夢幻のごとくなり。一度生を得て滅せぬ者の有るべきか。」と舞ったシーンを、日本国民はテレビや映画で何回も観せ続けさせられて来た。しかし、このテレビや映画の中の有名なシーンで演じられる織田信長の幸若舞「敦盛」は、二つの誤解を日本国民に長い間与え続けて来た。一つは、このシーンは、幸若舞「敦盛」のシーンではなく、例外なく謡曲（能）の「敦盛」のシーンであるという点である。幸若舞と能は、音声、調子、台詞、衣装、舞台装置等からして両者まったく異なる芸能である。幸若舞「敦盛」のシーンを放映しようにも、これについての情報や手がかりがこれまではまったく皆無であったのだから、無理もない話ではある。

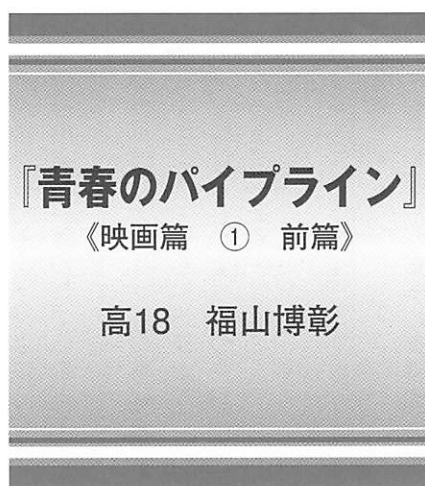
もう一つの誤解は、「人間五十年、下天の内をくらぶれば、夢幻のごとくなり。一度生を得て滅せぬ者の有るべき

か。」の有名な一節についての誤解である。この一節は、幸若舞の「敦盛」にのみ存在する一節である。台詞も両者はまったく異なっているのである。

以上の如く、これまでの日本国民は、テレビや映画によって、二セの幸若舞「敦盛」像を注入させられて来た。この様な状況を残念に思い、何とか本物の幸若舞「敦盛」像を知ってもらいたいと熱望し、復元の動きがわき起った。幸いにも、幸若舞「敦盛」の台本（正本）は、大江に所蔵されている。歴代の家元達と全国の幸若舞研究者達の援助と協力を得て、ついに復元に成功し、平成二十年一月二十日の大江天満神社奉納舞で上演のはこびとなった。（表紙の写真）出演者は、鼓方 二十七代家元江崎恒隆秋継、太夫 現三十代家元松尾正巳清平、シテ 梶島健夫広継、ワキ 松尾正光広重の四人の超ベテランであった。織田信長が舞って出陣した幸若舞「敦盛」とはこの様なものだったのか！鑑賞した観客達は一種の興奮と感動を覚えたものである。それ故、平成二十年度の幸若舞奉納上演曲目は、順に、「浜出」、「日本記」、「安宅（下）」、「高館（下）」、「曽我（上）」、「敦盛」の六曲という豪華版であった。

今後は、毎年、「敦盛」は大江天満神社奉納舞にて上演し続けられるであろう。東京のマスコミ関係者、特にテレビや映画製作関係者にお願したい。今後、テレビや映画で幸若舞「敦盛」を放映する時は、ぜひとも、大江天満神社で奉納されている本物の幸若舞「敦盛」を放映してもらいたいものである。伝習館

高校東京同窓会の会員の皆様にも、東京マスコミ関係者への情宣と働きかけをお願いしたい。（大江天満神社奉納幸若舞解説者、西九州大学教授、佐賀大学名誉教授）



これまでのシリーズ5回は、学校での出来事について書いてきました。

- 1 片思いの女生徒の修学旅行中の失踪
- 2 還暦同窓会での再会と謎の解明
- 3 先生をやり込めた弁の立つ級友
- 4 先進的な日本史の授業
- 5 ユニークな音楽の先生の授業

今回は私の小さい時からの趣味の一つである映画についての話を、インタビュー形式でお送りします。

（仮想の聞き手は滝川クリステルさん）

《第1章》

—こんにちは、初めまして滝川です。今日はお話をよろしくお願い致します。「こちらこそ、大変光栄です。知性と美貌とスタイル、昔から大ファンです。」

《第2章》

「ありがとうございます。早速ですが、今日は映画のお話をお伺いできることですが、どの位の頻度でご覧になっていますか？ 邦画あるいは洋画？」

「そうですね、映画は小学校に入る前から好きで邦画も洋画も、機会ある毎に観てきました。8、9年前から飛躍的に増えて年間50本位になります。忘れるので映画手帳なるものを作り、それに評価や感想などを記録しています。」

「うわ、週一本ペースですか！ 映画手帳ってどんなものか見せて頂けますか？」

「ああ、これ、感想をパソコン印刷して、色々な映画についてこまめに書いてますね。あ、辛口の批評。えっ、かなり過激な表現。うわっ、強烈！ 怖い。スゴイきわどい。問題な事も書いてありますね。陰謀、殺し、不倫、セック。いや恋愛論など、何か本心が見えてしまいそうで。オモシロ怖い。」

「ま、他人に見せるものではないので言いたい放題書いてます。ハイ、返して。」

「ああ、もうダメですか。残念。ところで今までで一番好きな映画は何ですか？ いつ頃ご覧になりました？」

「洋画ですと『ウエスト・サイド・ストーリー』です（以下WSS）。柳城中学3年の時に映画・音楽好きの親友、木村洋一君と大牟田に観に行きました。因みにその後で、学校の映画鑑賞としてテアトル公衆に観に行きました。それまで『にあんちゃん』とかいわゆる教育映画ばかり観せられてきたので、学校の教育方針の変更に驚きました。」

「そうですね、では今日は『WSS』の映画のお話をお聞かせください。ミュージカルで内容がロミオとジュリエットに似ていたと思いましたが。」

「。と言うよりも、最初からその現代版として、作曲家のレナード・バーンスタイン、脚本家・劇作家のアーサー・ロレンツ、振付師ジェローム・ロビンズという3人を核に創られました。一九五七年初演の舞台は爆発的な人気で、映画も五十年以上前の一九六一年の公開です。」

「面白いところ、ずばり見どころはどんなところですか？」

「うーん、映像・音楽・踊りなど全部ですね。まず、オープニングからいきなり画面に様々の長さの縦の棒線が沢山映ると同時に音楽が始まり、その画面の色が7色に変化していきます。この序曲音楽と不思議なデザイン画面とで胸がわくわくしました。因みに通常のフィルムの倍の幅の70ミリで撮影・映写する大画面・超大作映画の全盛期で、しかもクラシックのオペラと同様、本篇前に序曲を流すのが流行っていました。『ベン・ハー』、『アラビアのロレンス』、『マイ・フェア・レディ』などもそうですね。」

「出だしから魅了されたお話、映画と同じ2時間半になってしまいました。」

「最初に、これから話すことは、この映画を観たことのない方にはネタバレらしになりますが、お許し願います。でも観たことがある人でも、意識しないとまず、気付かないことが多いと思います。画面にタイトルが出てきた時点で、ニュー

ヨークの空撮デザインであったことが分かり、国連ビル、ヤンキー・スタジアム、大きな橋などが写ります。でも地図で調べたら、ウエスト・サイドに至るまでの飛行経路はジグザグで支離滅裂でした。『サウンド・オブ・ミュージック』も空撮から始まりますが、同じ監督のロバート・ワイズの好みですかねえ。」

「はい、作品賞、監督賞、撮影賞、美術賞、録音賞など主な部門は総ナメの10部門授賞です。でも主演女優賞と作曲家賞・音楽賞は受賞してないんですよ。」

「え、そんなに多くの賞を取って優れた映画なのにどうしてかしら？」

「それは、主演のナタリー・ウッドの清楚で可憐な演技は魅力的でしたが、歌が吹き替えだったためらしいです。当時吹き替えの事は公表されず、その人の名前にはクレジット・タイトルやパンフレットにも出ていませんが、関係者の中では周知の事実でした。後年、吹き替え者が実は私だと漏らし、サントラ盤の印税もなるとして訴訟問題にもなりました。ナタリー・ウッドの歌のスクリーンテスト映像が残っていますが、そのまま使える程のうまさです。率直に言って申し訳ないですが、最近の藤原紀香さんや米倉涼子さんより遙かに段違いに上手です。現在は吹き替え歌手マーニ・ニクソンの名前が解説書などにも載っていますが、驚くことに、彼女は何と『王様と私』のデボラ・カー、『マイ・フェア・レディ』のオードリー・ヘップバーンの吹き替えもやっているんですよ。ヘップバーンも同

様の理由のためか、主演女優賞を貰えませんでした。旦那さんがアーネスト・ゴールドという『栄光への脱出』などの著名な映画音楽作曲家だったマーニ・ニクソンは影の主役でしたが『サウンド・オブ・ミュージック』に修道女役で実際に出ています。因みに、映画のトニー役もアニタ役も歌は吹き替えでした。作曲家賞・音楽賞は、映画用に新たに作られた曲ではないとして対象外でした。」

「そうだったんですか!? 知りませんでした。ところで、ロミオとジュリエットの筋書きとは違うんですよ？」

「ええ、違います。人種の違うジェット団とシャーク団の2つの不良少年グループの対立、敵同士の男女の恋愛の構図などは同じですが、ジュリエットは死ぬがマリアは生きている、トニーが恋と友情の板挟みになる、ミュージカルはたった2日間の出来事が描かれている点などが主に原作と違ってきます。それまでのミュージカルは、クラシックの喜劇的なハッピーエンドで楽しい物語が殆どだったので、題材としてオペラの悲劇性を持ち込むのは、ある意味冒険だったでしょうね。」

《第3章》

「シェイクスピアの原作と構図は同じでもストーリーが違うことはお聞きしました。台詞はどうか？」

「シェイクスピア劇の台詞や似たような台詞も一切使っていません。やはり現代ニューヨークでは、そのまま現代米語が相応しいと考えたのでしよう。ですから

俗語やスラングなども使われていて、例えば、ビート・イット！(消えな！)と言う台詞が頻繁に出てきます。因みにマイケル・ジャクソンの曲『今夜はビート・イット』、これは強烈なビートなどに使うビートと誤解し、ビート・イット自体の意味を知らずに題名にした誤訳で、歌詞の内容からは、逃げる！が正しい日本語訳です。こういう英語に関しては、もう一人の映画・音楽好きの親友、谷川正剛君とよく話をしましたね。

最後のシーンでマリアが警察官に血相を変えて怒鳴る台詞、ドン・チュウ・タッチ・ヒム！は命令文なのにユウが入っているのは、おかしいんじゃないか？いや、お前なんかトニーに触られてたまるものか、という強調の意味だとか。それとは別の話で『揺りかごから墓場まで』と言う慣用語をご存じでしょう？

—は、from the cradle to the grave、生まれてから死ぬまでの意味。
「ええ、さすが…。実は同じ意味のスラングなどがジェット団の団結と絆を誓い合う台詞や『クイントット』の歌の中に出てきます。Womb to tomb、birth to earth、sperm to wornと3種類の表現が映画の台本には書いてあります(子宮からお墓まで。誕生から土に帰るまで。精子からウジ虫まで。アルファベットと発音が似ている言葉遊び)。映画では台詞としてはそのままですが、歌の部分では俗な言葉のためか、ワン・トゥ・スリーに置き換えられています。米国人キャストの日本公演の舞台に最近2度行ききましたが、『クイントット』では台本通り

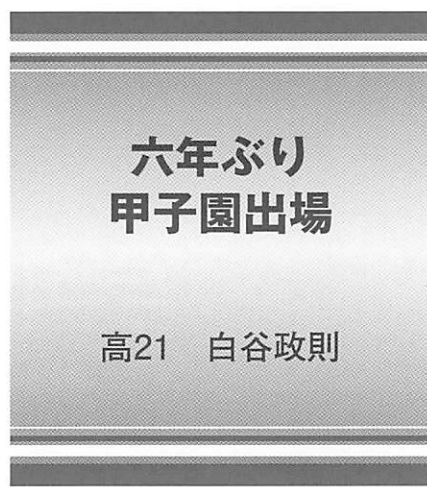
にスラングのまま歌ってました。」
—へえ、英語の話も奥深く面白いですね。相当お調べになってますねエ…。
「ついでに調子に乗って、ひどい誤訳の歌の題名の話の一つ。訳した奴はバカかと私は憤慨しているんですが、『アイ・キャン・ゲット・スターティッド』というスタンダード・ジャズの歌、邦題は『言い出しかねて』というんです。」

—それはどういう歌ですか？ 何か言い出せない事情でもあるのかしら？
「歌詞は、『僕は飛行機で世界一周をし、スペイン革命を平定し、家と劇場を建て、北極探検をし、ゴルフはアンダー・パーで周り、映画スターにと誘われ、大恐慌時にも株で儲け、英国王にも謁見した…そんな超人の僕は君に夢中だけど、君は見向きもしてくれず、君との愛の関係が何も始まらない…』というのが歌の内容です。だから、『言い出しかねて』などとは誤訳も甚だしい。真意は、たとえ凄腕で地位も名誉もお金も商才も体力も冒険心もあり、男として完璧だとしても、君は僕を受け入れてはくれない…どうしようもない…ああ…、と言う…。」

—あら、お嘆きですか、何か切実な感じ。どなたがお好きな方でもいる…？
「え、いや、ま…。私も同じ様に見た瞬間、感性・フイリングで女性を好きになるタイプですから、気持ちちが分かるので何ともやり切れなくて…。」

話をもとに戻しましょう。ところで…え？ 時間と紙面が足りない!?
…それでは、話はまだまだあり、長くなるので、前篇はこの辺で、来年後篇を。」

(尚、後篇では衝撃の秘密の話がありますので、この映画を観たことのない方は観ておいた方がいいかも…。)
(次回に続く)



から二日間、一日四試合、各チーム一試合のみ。
十一月十一日(日) 第4試合
神奈川県選抜 5-2 伝習館

朝からの雨の中、十三時プレーボール。相手は横浜・東海大相模・桐蔭等甲子園常連校の寄せ集めチームで体格も一回り大きい。伝習館はキビキビしたプレーで一歩もひけをとらない。校歌『星座よ輝け』のあと三回裏フォアボールと単打で一点先取、しかし四回表満塁から長打、フォアボール長打と五点を奪われ逆転される。そのあと一点を返しランナ12・3塁、ホームランが出れば同点、ヒットでも一点差…3塁側応援席では一段と大きな声援が飛ぶがあえなく三振。六回表相手チームの攻撃が終わったところで試合時間一時間半経過、規定により試合終了。試合には負けただけ応援席の皆さん笑顔でした。甲子園で伝習館の試合を応援し、校歌を歌えた事に満足の様子でした。

伝習館野球部OBがマスターズ甲子園(詳しくは東京同窓会会報8号)に出場しました。甲子園出場までの経過及び野球部OBの活動の一部を紹介いたします。

マスターズ甲子園福岡県予選リーグ

今年	十チーム参加
一回戦	不戦勝
二回戦	五月六日(日)
伝習館	7-4 三池工業
準決勝戦	五月二十日(日)
伝習館	12-2 宗像
決勝戦	同日
伝習館	12-8 祐誠

伝習館野球部OB会

五月	マスターズ甲子園福岡県予選
八月	九州OB野球選手権福岡県予選
十月	九州OB野球選手権大会
十一月	マスターズ甲子園
六年ぶり二回目の出場	

マスターズ甲子園
全国から十六チーム出場、十一月十日

このように現役時代では信じられない

活躍です。前日の開会式の後、伝習館同窓会関西支部で選手団の激励会を開いたそうですがその時の苦労話では選手は地元だけでなく名古屋、大阪から試合の度ごとに呼び集めて大会に出場してるそうです。伝習館野球部OB会ホームページに詳しく出ています。

元々、野球部OBの関係者に原稿を依頼していたのですが、甲子園から締切まで一週間も無かったので急遽私になりまして。通り一遍の内容になりましたが、私の中では伝習館が甲子園だけでビッグニュースなので皆様にもお知らせいたします。

「編集子追記」

「マスターズ甲子園」については、会報第8号（2008・1刊）にて高3山本明さんに詳細を書いて頂いています。今回また6年ぶりに母校野球部OBが福岡県代表として出場しました。

直接現地甲子園に行かれて、応援観戦された高21白谷政則さんに急遽お願いして、書いて頂きました。ご多忙の処有難うございました。

永遠の高校球児たちが夢の舞台へ 伝習館高校野球部OB会がマスターズ甲子園出場

県立伝習館高校野球部OB会は、甲子園球場で11月10日、11日に行われるマスターズ甲子園2012に県代表として出場します。マスターズ甲子園は、元高校球児の同窓会チームが憧れの甲子園球場を目指す大会です。今大会の対象地区で勝ち上がった16チームが出場。同OB会は5月の県予選で優勝し、大会出場を決めました。6月26日に、同OB会の津村生二会長、内村末治前会長、阿志賀浩一主将が金子市長に出場を報告。津村会長は「県代表として頑張ってきます」と意気込みを語りました。



津村OB会長（右から2人目）らに市長が激励

▲「広報やながわ」2012年7月15日号より

学年だより

第8回（昭和32年）卒同級会

樋口 誠佑

平成24年3月22日（木曜日）午後12時45分から故郷柳川で卒業55周年記念の第8回（昭和32年）卒同級会が開催されました。

私たち第8回生は卒業後5年毎に同級会を開催して居りましたが、還暦を最後にその後は伝習館全体の同窓会で会うことに変え、毎年30名前後が出席して居ります。

しかし、同級会開催を希望する声が段々と大きくなって、15年振りに開催となった次第です。

当日は川下りをして会場へ合流する班と直行班に分かれ、同級生の真崎 勝子さんが会長の会場「ランヴィエール勝島」に集合しました。

地元柳川を初め全国から85名の元美男・美女が集い、大変な賑わいでした。

初めて参加した人や久しぶりの人、昔のまま変わらずに一目で判る人、名札を覗き込んで思わず互いに指差す人、それでも名前と顔が一致せず時間が掛かった人も多かったようですが、学生時代の懐かしい青春の頃にタイムスリップして、お互いの再会を喜び、昔話から近況・健康・家族のことなど話の輪が咲き、楽しい一時を過ごすことが出来ました。

約3時間に及ぶ1次会もあっという間に過ぎ、又の再会と健康を誓って、円陣

を組み旧校歌・応援歌を斉唱してお開きになりました。

引き続き同会場の喫茶コーナーでの2次会にも殆どが参加して、話が尽きることはありませんでした。

竹下 学君を初め地元幹事の皆さん！開催いただき有難う御座いました。お陰さまで多くの人と

再会出来て楽しい思い出になりました。

私たちの時代は1学年10組約500名が在籍して居りましたが、住居も全国に分散して居ます。

残念ながら年を経るに従い既に鬼籍に入られた方も約1割強になり、淋しい限りです。

関東近県にも現在63名の同級生が住んで居て、2年に1度同級会を開催して居りますが、年を取るにつれ懐かしさと絆が深まり、旧交を温めて居ります。

次回地元の同級会が、3年後の喜寿と6年後の傘寿の時期に開催され



伝習館高等学校 第8回生 同窓会

平成24年3月22日 於 ランヴィエール 勝島

ることを期待して、又参加して皆様とお会い出来るように、これからもお互いに健康に留意して充実した毎日を生き延びて行きましょう。

以上

「伝十会」(昭和34年卒 10回生)

内山秀生

我々10回生の集い「伝十会」が昨年11月8日「お花」で開催され、110名もの多数の人が参加しました。関東からの参加は7名でした。

11年ぶりの開催で久しぶりの人、卒業以来の人(中々顔が思い出せなくて……)などと話をしているうちにアツと



伝十会 同窓会 (1組～5組)

平成24年11月8日 於 柳川 御花

いう間に3時間が過ぎました。「又近いうちに開催しよう」ということで一次会は終り、二次会はカラオケ、喫茶等で夫々楽しんだようです。宿泊組は翌日、「立花家のミカン園」まで行ったそうです。楽しいひとときを過ぎ柳川まで行った甲斐がありました。

楽しかった「伝十会」をお世話いただいたのは次の方々です(敬称略、順不同)。

立花寛茂 石橋寿雄 山田英夫

大村喬志 近藤誠四郎 東辰子

相浦英子 篠原弘子 岩井美江子

古賀マツエ 高須清子 松本延都子



伝十会 同窓会 (6組～10組)

平成24年11月8日 於 柳川 御花

高十二回生同期『くつぞこ会』

小野アケミ

十月二十八日(日)
東京 八重洲『ちゃぼん』
出席者 三十名

くつぞこ会は隔年毎のペースで開催を
決めて居りましたが今年は古希をお祝し
て開きました。

福本 邦子
新井 美人

ペソリヌー島



第29回「くつぞこ会」 2012.10.28 東京八重洲「ちゃぼん」

- 石塚武美 江口清次 尾田常昭 加藤勉平 梶島勉志 北村健一 古賀懿徳 白尾邦久 滝口晴夫 辻野史郎 野上一治
野田幸治 橋本寛治 橋本昌一 葉玉真記 原田健次郎 藤生廣来 藤吉憐二 山田繁實 山田裕嗣 横山正和
小野アケミ 小畑妙子 田中治子 中島義枝 馬場康子 春口明美 松本瞳 峯本昭子 村上国子

高12回同期会

新井 美人

第18回生(昭和42年卒業)
の同期会開催報告

福山 博彰

開催日…2012年3月17日(土)
12:30~16:30(一/二次会)
16:30~20:00(三次・四次)

場所…京王プラザホ
テル 42F(同窓会
プラン)

出席者…石川 滋、
大津 博、川口苦楽、
坂梨 猛、鶴 京子、
都留知子、十時理展、
中川紀代子、松藤恵
子、松藤由朗、満生
英二、山下京一、福
山博彰(男性9人、
女性4人)

1年振りの同期会
は盛り上がり、一次
会の12時過ぎから深
夜の四次会まで、話
が尽きませんでした。
都留知子さんは
東京の同期会に初参
加で、遙々福岡から
来てくれました。
今回都合がつかず
欠席の人が数名いて
お互い残念でした
が、一部の人はミ
ニ同期会を別に開き



2012.03.17

高18回同期会

ました。欠席の方の次回参加を期待して
います。(幹事…福山)

ふるさと瓦版

新

市史抄片

柳川の国宝

85

■ 問い合わせ

市生涯学習課市史編さん係 (☎72・1275)

写真は柳川にある国宝、「短刀銘吉光」です。刃長23・2センチ、茎（柄に入っている部分）に作者である吉光の名前が刻まれています。

吉光は、鎌倉時代中期（13世紀）に京都粟田口（現在の京都市東山区）で作刀していた刀鍛冶で、江戸時代には有名な正宗以上の名工とも評価され、短刀作りの名手として知られています。短刀とは、刃の長さが1尺（約30・3センチ）以下の刀のことです。

先がかすかに内側に反った、気品のある姿は、作られた当時のまま変わらず、作者銘もはっきりと残っています。刀の地肌を注視すると、鉄を鍛錬した結果に生じた模様、目の細かい板目のように見えます。刃の白い部分との境目は真つすぐで、鉄製であることを忘れさせるような

輝きがあります。

この緊張感をはらんだ美しさは、まさに「国の宝」だといえます。しかし、その魅力は見た目だけではありません。短刀がたどってきた歴史にもあるのです。現在、この短刀は柳川藩主立花家伝来品として立花家史料館が所蔵していますが、由来は室町時代（14世紀）に始まります。

江戸時代、7代柳川藩主・立花鑑通の時代に編纂された由緒書には、大友宗麟の意を受けて大友一族の名門・立花氏の名跡を継ぐことになった戸次道雪が、立花家の重宝として、この短刀を受け継いだと記されています。さらにさかのぼると、立花山城（福岡市東区・新宮町・久山町）を築いた立花貞載が、室町幕府初代將軍・足利尊氏より、武勲の褒賞として建武3（1336）年に拝領した

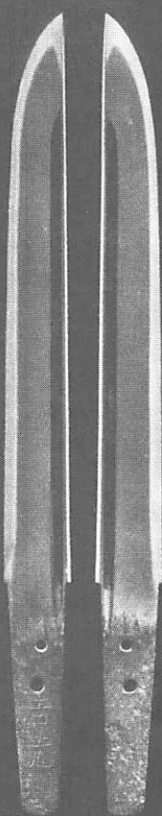
ことが確かめられます。つまり、およそ750年前に京都で作られた短刀が、長い年月と距離を超えて430年ほど前に戸次道雪の手元へ渡った記録が残されているのです。

道雪の後は、彼の娘・闇千代を正室とした初代柳川藩主・立花宗茂へ伝えられ、柳川藩主立花家で代々大切にされてきたと考えられます。

今、この短刀が柳川に残され、国宝としての輝きを保っているのは、歴史の偶然と、多くの人々による丁寧な管理のためです。次世代へ伝える保存管理のために限られた期間しか展示することはできませんが、ぜひ実物をご覧になって、その美しさと歴史の重みをお楽しみいただきたいと思えます。

立花家史料館学芸員 坪内広子

国宝 短刀銘吉光 一口（鎌倉時代）



立花家史料館所蔵

特集展示

立花家の刀剣

よくわかる刀剣の見方

- 会期 4月14日(土)～5月27日(日)
- 会場 立花家史料館
- 入園料 (史料館含) 一般500円、高校生300円、小中学生200円
- 内容 国宝「吉光」や重要文化財の剣「長光」などを展示します。
- 【問】御花 (☎73-2189)

市長の

ひとりごと

大川市長
植木 光治

師の影 — 仰げば尊し —

「仰げば尊し」をきいて、涙腺のゆるむ世代はまだ多いと思う。このメロディー、ずっと出所不明とされてきたが、最近になってアメリカ民謡が原曲であるとわかったそうです。

「仰げば尊し・・・、教えの庭にも疾幾年・・・、今こそ別れめ、いざさらば」

荘重なこの詩が、唱う者の心をゆするの、「仰げば尊し、わが師の恩」の一節と、「今こそ別れめ、いざさらば」。輩との別れを決然として自らにいきかせる最後の一節でしょうか。

卒業式は巣立ちの決意を誓いあう荘厳な儀式ですが、この曲が唱われなくなって久しいと聞いたことがあります。学級崩壊というおぞましい現象が出はじめた時期と、軌を一にしているのは不思議です。

「三尺さがって師の影を踏まず」は、「仰げば尊し、わが師の恩」と同じ発想、同じ価値観に立っているように感じます。

教える者と教えられる者が、おなじ地平に立てばすなわち教育は成り立たない。知識の伝達はできても、「師」として教えるを乞う者の前に立ったことにはならない。

教育は、人格未完成の途上人にたいして、全人格的な陶冶をほどこす作業である。

よって、教える側には人格的な高見と高潔な志が伴っていないとすればならず、教えるをうける側には、すぐれて謙虚さがなければ成り立ちません。

新渡戸稲造が「武士道」を書くにいたった、ベルギーの神学者ラブレの衝撃の一言。

「教育の基盤に宗教がないとは！、日本ではなにを礎として子弟の教育を行い、その倫理を培ってきたのか。」

教育も倫理も「サムシング・グレート」、偉大なるなにかへの畏敬の念がなければ成り立ちようがないとラブレは言いたかったのでしょう。

何かにひざまずく謙虚さがなければ、そして、そのことを教えないとすれば、その者の心をたがやし人格的な陶冶をほどこしたことになる。

「仰げば尊し、わが師の恩・・・」を子供たちが素直に口にできる環境が整ったとき、苦難に向きあう日本はそれを遅く乗りこえ、真に美しき人々が住む美しき国として、名誉ある地位を保つことになるでしょう。



▲「市報おおかわ」2012年3月1日号より

市長の

ひとりごと

大川市長
植木 光治

少年ふたり — 人はどこまで強く気高く・・・ —

この写真を見てどう感じられるだろうか。終戦直後の長崎でオダネルというアメリカ軍カメラマンによって撮られたものです。

解説には、死んだ弟の火葬をじっと見つめていたが、やがて後ろを振り向くことなく去っていったとあります。

件のカメラマンは生前、あの少年の姿が今もって脳裏から離れないと語り続けていたそうです。

背負っている幼児は死んだ弟か、それとも眠っている別の弟か。戦災に倒れた両親にかわって弟たちを必死でやしない、ついに力つきたのでしょうか。

極限の悲しみに耐え、じっと弟の弔いを見つめる姿に、人はどこまで強く気高くなれるのか深い感動と衝撃を受ける一葉です。

背中の子は眠っている別の弟であってほしいと思わずにはられません。

焼野が原の東京で日系米兵が出会った靴磨きの少年の話も同じ感動を含んでいます。年かっこうは7歳前後で丁寧な仕事ぶりだが、空腹のようすは隠しようもない。

兵舎に帰りジャムとバターを塗った一切れのパンをそっとわたすと丁寧に礼を言って、小さなこの中にしまおうとする。なぜ食べないのか尋ねると少年は答えます。

「うちに、幼い妹のマリコが待っています。マリコと一緒に食べるのです。」

空腹で目もまわりそうな少年は、その場でパンの半分をすぐにでも口にしたいにちがいませんが、もらったままのパンの包みをマリコの目の前で開いて、喜びで輝くような妹の顔を見たかったのでしょうか。

そして、すこし大きめに割った方をマリコに与え、二人して食べたかったのでしょうか。日本には、かつてこのような少年・少女が普通にいました。

陰湿ないじめをなす今の日本の少年達との比較は、それ自体が意味をなさないほどの落差があります。

この一葉の写真をみれば戦前と戦後の教育が「人をつくる」という教育本来の目的に照らしたとき、どちらが優れているか議論をまぢません。



▲「焼き場に立つ少年」
写真提供：山崎真氏

▲「市報おおかわ」2012年10月1日号より

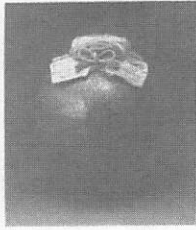
豊臣秀吉ゆかりの茶壺

立花家伝来の茶道具

写真は、初代柳川藩主・立花宗茂が、豊臣秀吉から、大坂城で拝領したと伝えられる茶壺です。

宗茂は、秀吉の九州平定戦における功績により、豊後大友氏から独立して筑後3郡を治める大名となり、柳川に城を構えました。それからは、豊臣政権下の大名として、柳川と秀吉がいる京都・大坂を行き来しており、天正18(1590)年は1年間近く大坂に滞在したとみられています。もしかすると、このころに茶壺を拝領したのかもしれませんが。

茶壺はかつて、茶碗や茶杓、水指と、いろいろある茶道具のなかで、もっとも位の高い道具として大切にされていました。とくに、織田信長や豊臣秀吉をはじめ、戦国時代の武



宗茂が秀吉から拝領したと伝えられる唐物茶壺
中国・明時代(15〜16世紀)

この茶壺は12月24日まで、立花家史料館の秋のテーマ展「お茶をたしなみ、お香をたのしむ〜千利休がそだて片桐石州がつたえた“わび茶”の道具と、王朝文化へのおこがれをあつめた雅な香の道具〜」で展示中です。
【問】同史料館 (☎73・2189)

将たちは、名のある茶壺を競い合つて買い求め、茶壺一つに金50枚以上の値段を付けることもありました。その時流のなかで、茶壺を拝領した宗茂の喜びは、とても大きかったことでしょう。以来、この茶壺は、立花家の家宝の一つとして大切に伝えられてきました。大きく四つに割れたようですが、外見からは分からないように漆で補修され、400年後の現代まで伝来してきたのです。

写真の茶壺は、高さ35・0cm、胴周97・5cmと、ひと抱えにもなる大きさでありながら、実際に手に取ると、とても軽く感じます。裂で隠れていますが、壺の肩上に耳が四つ付き、各耳の間に「蓮華王」印がおされています。暗灰色の素地に化粧土が塗られ、その上から裾を残してかけられた褐色の釉薬は、まだらで濃淡がありますが、そこが見どころとなっています。

この形状や作風から、15〜16世紀に中国南方で作られた褐釉四耳壺とみられる伝来の茶壺は、製作当初から茶壺として作られたものではありません。水や酒、香辛料などを運

搬・保存する容器として作られ、日常用品として安価で売買されていたと想像されます。しかし、日本の茶人たちは、中国からもたらされた雑器に美しさを見つけ出し、茶道具の筆頭に位置付けたのです。

長い時を経たことを感じさせる紅い地雲板唐草文金襴の口覆の下には、桐蓋がかぶせられ、現状では封印紙が貼られています。おそらく、この壺に葉茶を入れて保存し、茶事にのぞむことに壺から葉茶を出し、石臼で引いて抹茶にしたのでしょう。

戦国時代以降、江戸時代を通じて、茶の湯は、武家が修めるべき教養であり、大名たちは自らの家の格にふさわしい茶道具を収集しました。秀吉ゆかりの茶壺に代表される、立花家伝来の茶道具は、柳川藩主の名に恥じない名品ぞろいで、千利休の流れをくむ「わび茶」の世界を感じることができそうです。

現在開催中の秋のテーマ展は、立花家の茶道具コレクションを、まとめてご紹介しています。またとない機会ですので、ぜひご覧いただきたいと思ひます。

立花家史料館学芸員 坪内広子

▲「広報やながわ」2012年11月1日号より

【情報交換の窓口】

【市内で珍しい情報があればお寄せください】

すい晶玉

内村航平選手と大川の関係は？

ロンドン五輪で注目の内村航平選手の父、内村和久さんは、大川市の出身で、高校時代に全国高校総体で優勝するなど、活躍した元体操選手です。(柳川高校)

市内に住む祖母の安子さんは、内村選手とは、なかなか会うことができず、前回の北京オリンピック壮行会で、感激のあまり泣いて抱きつき、内村選手を驚かせたそうです。

「みなさんの期待に応じてメダルをとって欲しいですが、とにかくケガをしないように。これが一番の願いです」と孫を気づかう安子さんでした。

体操競技は7月28日から。みなさんも内村航平選手を応援しましょう!!

▲「市報おおかわ」2012年7月15日号より

柳川市史 最新刊行物のご紹介

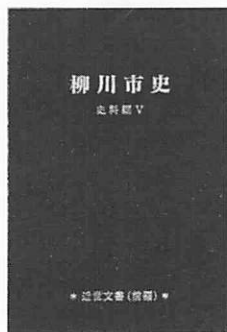
◇柳川の歴史 4『近世大名 立花家』



戸次道雪・立花宗茂・忠茂・鑑虎の時代を記述。戦国大名大友家の家臣から、大名に取り立てられ、改易・牢人といった苦難の時期を経て、再び柳川の領主として返り咲き、近世大名として脱皮をはかる立花家の姿が描かれています。

四六判 467頁
頒布価格 1500円 (税込み)

◇『柳川市史 史料編V 近世文書』



戸次道雪の立花入城から、立花宗茂、忠茂、鑑虎期にわたる古文書約3700点を出所ごとに収録。柳川の歴史4『近世大名 立花家』の記述の裏付けとなる史料集です。

A4判上製本 2冊組
前編 779頁・後編 777頁
頒布価格 5000円 (税込み)

◇柳川歴史資料集成第6-2集『柳川の民俗概観II』



平成17年度から23年度にかけておこなった、市内三橋町・大和町の各地区での聞き取り調査の成果をまとめた民俗調査の報告書です。

A4判 270頁
頒布価格 1200円 (税込み)

教育は人づくり

企業人生四〇年から見た
教育界への要望

江崎 正直

九大工学部出身で80歳にして企業人の立場から、教育の真髄に徹した発言を著述された江崎正直氏の本書を読まれる方に、強い感動を与えるものと信じ、推薦したい。

聖路加国際病院名誉院長 日野原 重明先生 (101歳)

新刊紹介

平成二十四年九月に発刊された、江崎正直君の著作を紹介します。教育界以外の企業人の視点からの発言が、波紋を呼んでいるようです。一読を希望される方は江崎君まで・・・。

- 第一章 民間企業からみた学校教育の課題
- 第二章 若人よ二十一世紀に翔け
- 第三章 社会人への心構え
- 第四章 人材育成私論
- 第五章 二十一世紀の若者に期待する
- 第六章 日本の学生よ、がんばれ
- 第七章 志を立て貢献する
- 第八章 生き生きと生きる
- 第九章 子づくり講演・大牟田奮闘記
- 第十章 金剛石も磨かざれば

以上

賛助金のお振込方法

① 同封の郵便振替用紙による

② 銀行振込による

銀行名 三菱東京UFJ銀行 銀行コード(0005) 支店名 駒込支店 店コード(061)
普通預金
口座番号 1073673
口座名 伝習館東京同窓会

いづれのお振込の場合にも必ず回生又は卒業年度をお書き下さい。

広告募集

チラシ広告

対象は東京同窓会会員向けに製品・商品・営業内容などをPR、販売したい方。
○チラシ三千部を作成し(フォーム自由)事務局宛(P36参照)送付下さい。会員への会報送付時に同封郵送します。
○広告代金1一件につき5万円を賛助金として頂きます。
会員の皆様からも、希望業者の方をどしどしご紹介下さい。

募集中!

1. 表紙絵・表紙用写真

原稿は伝習館OBならダッデンヨカバンモ
○テーマ自由(同窓会報にふさわしいもの)
小説・随筆・詩・短歌・俳句・川柳、絵画・写真・絵手紙、書など

○字数制限なし(極力四〇〇字詰め(20×20)原稿用紙使用)
写真・絵・カット添付可

○表紙・投稿者氏名・卒業年度・総字数を書いて下さい。

—原稿送付先—

〒344・0032

春日部市備後東8・8・32

伝習館東京同窓会 小野 善睦 行

☎・FAX048・735・2431

編集後記

○「先輩・後輩」欄の執筆者が学年幹事さん方のご努力により増えて来ました。今号もまたまた高12・小野アケミさん、高14・高木節子さん、のご協力を得ました。ありがとうございます。

○沢山の方々のご投稿ありがとうございました。一つお願いがあります。原稿と共に写真やCD等を添付してご投稿頂く方があり、「終了後返却して」とのご要望があります。真に恐縮ですが貴重な資料・写真を編集委員の方で長期間お預かりし返送するのは、紛失・毀損はしないかと大変神経を使いますし、万一の場合をご考慮頂き、今後ご投稿の添付資料は複製を作成されるなど、「返却不要」のものを送付下さいますようお願い致します。

○現在の編集委員は次の通りです。

小野 善睦(高2)

内山 秀生(高10)

永倉(跡部)素子(高10)

江崎 正直(高2)

松永 肅(高5)

副会長 原田(立花)万紗子(高13)

副会長 江崎正直

発行責任者 江崎正直

〒156・0043
東京都世田谷区松原3・39・

25・801

江崎 善



伝習館東京同窓会事務局

〒170-0003 東京都豊島区駒込3丁目3-19 千鳥屋方

TEL 03(3915)0865 FAX 03(3918)8139

<http://densyukan-tokyo.jp/>

伝習館東京同窓会学年幹事名簿 平成24年12月現在

卒業年次	氏名	卒業年次	氏名	卒業年次	氏名
中学第48回	宮本弘道	第16回	椛島正司	第40回	田中貴士
中学第49回		同上	水澤昭子(田中)	第45回	浦 裕美
中学第50回		第17回	北島文之	第48回	山中朋彦
中学第51回		同上	北野すえ子(潮井川)	第49回	
中学第52回		第18回	福山博彰	第50回	河内慎治
中学第53回	古賀和典	同上	十時理展	第51回	大曲由起子
中学第54回	原 朗	同上	満生英二	同上	西田大樹
同上	山崎清勝	第19回	芹川季代子(立花)	第55回	武下優子
中学第55回	江崎和夫	同上	田中茂利	同上	松尾晴菜
同上	小泉祐一郎	第20回	高巢和登	第58回	市川広大
中学第56回	鬼丸敏男	同上	岡 賢二	同上	廣松綾香
同上	成清良孝	第21回	西原正道	第59回	川口 惇
高校第1回		同上	白谷政則	同上	廣松浩司
第2回	石崎知見	第22回	北原富美男	第60回	
同上(会長)	江崎正直	第23回		第61回	江崎崇浩
同上(編集委員長)	小野善睦	同上	樋口貴美子(田上)	同上	植木 智
第3回	酒井清行	同上	高田健二	第62回	亀崎元貴
第4回	荒井健之輔	第24回	酒見和平	同上	古賀康孝
同上	渡邊喜亮	第25回			
第5回	岸 栄洋	第26回	藤吉旭水		
同上(副会長)	松永 肅	第27回	高橋圭介		
第6回	石橋 修	同上	松藤峯成		
同上	戸上軍治	第28回	吉開孝人		
同上(会計)	荻島直記	第29回	齊藤慎吾		
第7回	田中敬之助	第30回	橋爪政男		
同上	龍 弘道	同上	小野弘美(中山)		
同上	永江嵩子(淵上)	第31回	池松利活		
第8回	樋口誠佑	同上	永田日出樹		
第9回	原田光紀	第32回	守谷由佳(富重)		
第10回	内山秀生	同上	森永 明		
同上	永倉素子(跡部)	第33回			
第11回	永尾弘行	第34回	大津志保		
第12回	小野アケミ(岸川)	同上	泉 孝子		
第13回	田中利道	第35回	田中铁郎		
同上	尾田義昭	同上	橋本知彦		
同上(副会長)	原田万紗子(立花)	第36回	松藤 亘		
第14回	石橋俊一	第37回	江口一元		
同上	高木節子(堤)	第38回	金子千恵美		
第15回		第39回	高橋 徹		

幹事未選出の学年は至急選出して事務局までご連絡下さい。



「心の中のギャラクシー（銀河）」2011年作

縦192cm×横150cmの一对

百合の聖女芸術大賞。バルシー美術館、アーレ・サンプル画廊収蔵

高6 木村松峯（峯子）氏



三柱神社大祭「おにぎえ」10月中旬
昔は山車（どろつくどん）も6台出て居りましたが、今は交替で3
〜4台が市中を巡回しています。
写真は旭町の踊り山（富重写真館前で）

撮影 高8学年幹事 樋口誠佑氏

